

社会、地理歴史、公民における 高次の資質・能力について

議題 2

高次の資質・能力の在り方について

- 総則・評価特別部会での考え方を踏まえ、**各分野・科目における高次の資質・能力の在り方**（特に、基本的な捉え方や各分野・科目の特性等を踏まえた記載の在り方）についてどのように考えるか。

議題2 社会、地理歴史、公民における高次の資質・能力について

社会科等の高次の資質・能力の在り方について … P 2

(1)	小学校社会科		…	P	6
(2)	中学校社会科	地理的分野	…	P	18
(3)	高等学校地理歴史科	地理総合	…	P	23
(4)		地理探究	…	P	27
(5)	中学校社会科	歴史的分野	…	P	33
(6)	高等学校地理歴史科	歴史総合	…	P	41
(7)		日本史探究	…	P	46
(8)		世界史探究	…	P	52
(9)	中学校社会科	公民的分野	…	P	58
(10)	高等学校公民科	公共	…	P	63
(11)		倫理	…	P	68
(12)		政治・経済	…	P	71
	参考資料		…	P	76

議題3 その他

社会科等の高次の資質・能力の在り方について①

1. 総則・評価特別部会での議論

総則・評価特別部会においては、中核的な概念等を「高次の資質・能力（※）」と位置付けた上で、以下の通り整理。

- 「知識及び技能の統合的な理解」「思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮」を示すことについては、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」の深まりの可視化を通じて「**深い学び**」を**実現する単元づくりのイメージを教師が持てるようにする役割**を担うもの。
- 各教科等の独自性を生かしつつ、共通に備えるべき要素や性質等が確保された「**高次の資質・能力**」を担保する**チェックポイント**（p79参照）として、以下の4つの視点が提示。

- A：教科等の本質的意義の中核に照らした重要性の観点
- B：資質・能力の深まりを示す観点
- C：深い学びを実現する単元づくりを助ける観点
- D：分かりやすさ等の観点

※論点整理では「知識及び技能」の深まりを示すものを「中核的な概念の深い理解」、「思考力、判断力、表現力等」の深まりを示すものを「複雑な課題の解決」と仮称し、それらをまとめて「中核的な概念等」と呼んでいたが、その後の総則・評価特別部会において、新たな用語が増えることを避けるため現行でも用いられている言葉として「高次の資質・能力」と呼ぶこととされた。

2. 方向性

※前回WGから再掲。変更箇所のみハイライト。

左記の考え方を踏まえつつ、社会科等においては以下の方針で**高次の資質・能力として整理**することとしてはどうか。

- 社会科等における高次の資質・能力については、
 - ① 社会科の**目標や本質的な意義（見方・考え方）から演繹的に導かれる側面**と、
 - ② 個別の学習内容をより深く習得するために**帰納的に導かれる側面**の両面から検討を行う。
- 内容のまとまりを通じて獲得してほしい統合的な理解や総合的な発揮として、「深い学び」を実現する単元づくりのイメージを教師が持てるようにするため、**原則、各分野・科目の各内容項目（中項目）ごとに構成する。**
- 上記を踏まえつつ、社会科・地理歴史科・公民科を通した「知識及び技能の統合的な理解」「思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮」の**基本的な捉え方**については、以下3.（1）参照。

3. 社会科における高次の資質・能力の基本的な捉え方

（1）社会科等全体の基本的な考え方

- 従前の「見方・考え方」で示していた**側面①「各教科等の学びの深まり」を促す事項については、構造化の中で内容に即して具体的に示すこととされていることから、具体的な視点や方法について示すこととし、その際、「知識及び技能に関する統合的な理解」「思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮」は以下の考え方として整理することとしてはどうか。**

【知識及び技能に関する統合的な理解】	【思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮】
○ 単元指導計画において、単元（内容のまとまり）のねらいとなるものであり、思考・判断・表現に関わる学習の過程を通して集積・統合された概念的な知識（概念化された理解）や概念的な枠組みを用いた理解と考えるかどうか。	○ 基本的には、社会的事象を捉える視点や方法（現行の見方・考え方）（*）を総合的に働かせた考察・構想の過程、形成される判断の基準、省察された表現を示したものとして考えるかどうか。 * 地理的分野・地理領域科目の例 位置や分布、人間生活と自然環境との関係、地域間の結び付き、スケール、変容 等

3. 社会科における高次の資質・能力の基本的な捉え方

(2) 各分野等の共通事項

- ・「知識及び技能の統合的な理解」と「思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮」については、単元に基づく授業づくりを想定しながら、各分野・科目の内容構成の特質に応じて示すこととし、一定の違いを許容することとしてはどうか。
- ・特に、「思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮」については、各分野・科目の学習上の特性や系統性も踏まえて、考察・構想・表現の学習過程について段階的に示すものとしてはどうか。
- ・内容項目に該当事項がない場合は、当該資質・能力の深まりを可視化する「知識及び技能の統合的な理解」や「思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮」については、記載しないこととしてはどうか。

(3) 各分野等における個別事項

<①小学校>

- ・発達段階も踏まえつつ、各学年の内容のまとまりごとに示すものとし、その際、同じ枠組みとして整理できる内容項目については、まとめて示すこととしてはどうか。（例：身近な地域や市区町村の様子 など）

<②地理>

- ・地理の具体的な視点については、地理教育国際憲章を踏まえつつ、学校現場のわかりやすさを重視する観点から、「位置や分布、人間生活と自然環境との関係、地域間の結び付き、スケール、変容」と整理することとしてはどうか。

<③歴史>

- ・学習の対象となる時代は基本的に共通の視点に基づき、知識及び技能の習得や思考・判断・表現を通した学びを行うことから、一定程度共通の記載とする一方、特に近現代など現代との結び付きを意識した学習を重視する観点も踏まえた記載として整理することとしてはどうか。

<④公民>

- ・基本的な原理や概念枠組みの理解、それを用いて活用、分析、考察、課題について構想するという段階的な学習の構造を踏まえ、記載するものとして整理することとしてはどうか。

(4) 記載内容の充実に向けた観点

- 小中高の分野・科目間の系統性・体系性も踏まえた記載内容の整理
- 知識及び技能を統合的に理解した姿をより明確に記載するための工夫
（内容項目の要約や個別の知識・技能の事項の列記を避ける記載とすることや、「重要」「影響」「変化」「取組」などの実質的に意味するところがより伝わるようにするための工夫）
- 学校現場の教職員や一般の方が読んだ際に真意がより一層伝わる表現とするための工夫
（できるだけシンプルな表現とすることや、難解な用語の活用を避けた記載とすることなど）

※ 現在示している高次の資質・能力の案は、現行の内容のまとまりを基準に記載していることから、今後、学習内容に関する議論等も踏まえ、見直しを行うことも必要。

(1) 小学校社会科

高次の資質・能力イメージ（案） <小学校 第3学年①>

第3学年		
	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	○身近な地域や市区町村は、今は様々な場所があることや地形や交通、公共施設など場所による違いがあること、これまで時間の経過とともに移り変わってきたことを理解する。	○位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などの視点に着目して、総合的に活用することで、市区町村の地理的環境や移り変わり、人々の生活の変化について考えたり、これからの市の発展を考えたりして、表現することができる。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
(1) ①身近な地域や市区町村の様子	都道府県内における市の位置、市の地形や土地利用、交通の広がり、市役所など主な公共施設の場所と働き、古くから残る建造物の分布などを、観察・調査したり地図などの資料で調べたりすることを通して理解する。	都道府県内における市の位置、市の地形や土地利用、交通の広がり、市役所など主な公共施設の場所と働き、古くから残る建造物の分布などに着目して、場所による違いを考え、表現する。
②市の様子の移り変わり	自分たちの市は、時間の経過に伴い、交通網が整備されてきたこと、公共施設などが建設されてきたこと、土地利用の様子や人口が変化してきたこと、生活で使う道具などが改良され変わってきたことなどを、聞き取り調査をしたり地図などの資料で調べたりすることを通して理解する。	交通や公共施設、土地利用や人口、生活の道具などの時期による違いに着目して、それらの変化を考え、表現する。

※各学習内容（白色背景の部分）については、現行学習指導要領をもとに暫定的な内容を記載したものであり、今後、個別の学習内容については別途検討するものとする。
（その検討状況を踏まえて、必要に応じて高次の資質・能力を見直すこともあり得る。）

高次の資質・能力イメージ（案） <小学校 第3学年②>

第3学年		
(2) 地域に見られる生産や販売の仕事	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	○地域に見られる生産や販売の仕事は、地域の人々の生活と密接な関わりをもって行われていることや消費者の多様な願いを踏まえ売り上げを高めようと工夫して行われていることを理解する。	○位置や空間的な広がり、事象や人々の相互関係などの視点に着目して、総合的に活用することで、生産や販売の仕事について多角的に考え、表現することができる。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	(ア) 地域には様々な生産に関する仕事があり、産地は市内に分布していること、一定の順序や工程があること、地域の人々の生活に使われていることなどを、見学・調査したり地図などの資料で調べたりすることを通して理解する。 (イ) 販売の仕事は、様々な工夫をして販売していること、商品や人を通して国内の他地域や外国とも関わりがあることなどを、見学・調査したり地図などの資料で調べたりすることを通して理解する。	(ア) 仕事の種類や産地の分布、仕事の工程などに着目して、関連を考え、表現する。 (イ) 消費者の願い、販売の仕方、他地域や外国との関わりなどに着目して、それらの仕事に見られる工夫を考え、表現する。
(3) 地域の安全を守る働き	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	○地域の安全を守る働きは、関係機関が相互に連携して緊急時に対処する体制をとっていることや、地域の人々と協力して火災や事故などの防止に努めていることを理解する。	○人々の相互関係などの視点に着目して、総合的に活用しながら、地域の安全を守る活動の様子について多角的に考えたり、社会への関わり方を選択・判断したりして、表現することができる。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	・緊急時は、関係機関がネットワークを活用して相互に連携すること、緊急事態が発生した時には、状況に応じて迅速かつ確実に事態に対処していることや、関係機関などが協力していること、地域の人々が対処していることなどを、見学・調査したり地図などの資料で調べたりすることを通して理解する。	施設・設備などの配置、緊急時への備えや対応などに着目して、相互の関連や従事する人々の働きを考え、表現する。

※各学習内容（白色背景の部分）については、現行学習指導要領をもとに暫定的な内容を記載したものであり、今後、個別の学習内容については別途検討するものとする。
（その検討状況を踏まえて、必要に応じて高次の資質・能力を見直すこともあり得る。）

高次の資質・能力イメージ（案） <小学校 第4学年①>

第4学年

	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	○自分たちの都道府県は、地形や産業など特色があることや人々が協力して特色あるまちづくりや観光などの産業の発展に努めている地域があることを理解する。	○位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などの視点に着目して、総合的に活用することで、県の地理的環境の特色や県内の地域の特色を考えて、表現することができる。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
(1) ①都道府県の様子	国内における自分たちの県の位置、隣接する県との位置関係、県全体の地形や主な産業、交通網の様子や主な都市の位置などを、地図帳や各種の資料で調べることを通して、理解する。また、各都道府県の名称や日本地図上の位置などを理解する。	我が国における自分たちの県の位置、県全体の地形や主な産業の分布、交通網や主な都市の位置などに着目して、地理的環境の特色を考え、表現する。
②県内の特色ある地域の様子	県内には、地場産業が盛んな地域や国際交流に取り組んでいる地域、自然環境や伝統的な文化を保護・活用している地域など特色ある地域があること、それらの地域では、特色あるまちづくりを進めたり、人々の協力により観光などの産業を発展させたりしていることなどを、地図帳や各種の資料で調べることを通して、理解する。	特色ある地域の位置や自然環境、人々の活動や産業の歴史的背景、人々の協力関係などに着目して、県内の地域の特色を考え、表現する。

※各学習内容（白色背景の部分）については、現行学習指導要領をもとに暫定的な内容を記載したものであり、今後、個別の学習内容については別途検討するものとする。
（その検討状況を踏まえて、必要に応じて高次の資質・能力を見直すこともあり得る。）

高次の資質・能力イメージ（案） <小学校 第4学年②>

第4学年		
(2) 人々の健康や生活環境を支える事業	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	○人々の健康や生活環境を支える事業は、地域の人々の健康な生活や生活環境の維持と向上に役立っており、そうした公共的な事業によって、生活が支えられていることを理解する。	○位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などの視点に着目して、総合的に活用することで、人々の健康や生活環境を支える事業について多角的に考えたり、社会への関わり方を選択・判断したりして、表現することができる。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	(ア) 安全確保に努めていることや安定的に供給できるように進められていること、現在に至るまでに供給する仕組みが計画的に改善されてきたことなどを、見学・調査したり地図などの資料で調べたりすることを通して理解する。 (イ) 廃棄物を安全かつ衛生的に処理していることや県内外の関係機関が相互に連携して処理したり再利用したりしていることなどを、見学・調査したり地図などの資料で調べたりすることを通して理解する。	(ア) 供給の仕組みや経路、県内外の人々の協力などに着目して、飲料水、電気、ガスを供給する事業が果たす役割を考え、表現する。 (イ) 処理の仕組みや再利用、県内外の人々の協力などに着目して、廃棄物を処理する事業が果たす役割を考え、表現する。
(3) 自然災害から人々を守る活動	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	○自然災害から人々を守る活動は、関係機関や地域の人々が連携して対処してきたことや、様々な備えをしていることを理解する。	○時期や時間の経過、人々の相互関係などの視点に着目して、総合的に活用することで、自然災害から人々を守る活動の働きを多角的に考えたり、社会への関わり方を選択・判断したりして、表現することができる。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	県内で過去に自然災害が発生していること、発生した際には県や市、関係機関や地域の人々が協力して対処してきたことや、関係機関と地域の人々は、起こり得る自然災害による被害を防いだり減らしたりするための備えをしていることなどを、聞き取り調査をしたり地図や年表などの資料で調べたりすることを通して、理解する。	過去に発生した地域の自然災害、関係機関の協力などに着目して、活動の働きを考え、表現する。

※各学習内容（白色背景の部分）については、現行学習指導要領をもとに暫定的な内容を記載したものであり、今後、個別の学習内容については別途検討するものとする。
（その検討状況を踏まえて、必要に応じて高次の資質・能力を見直すこともあり得る。）

第4学年		
(4) 県内の伝統や文化、先人の働き	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	○県内の伝統や文化は、地域の人々が受け継いできたことや、地域の発展など人々の様々な願いが込められていること、先人の働きは、地域の人々の生活の向上に貢献したことを理解する。	○位置や空間的な広がり、事象や人々の相互関係などの視点に着目して、総合的に活用することで、人々の願いや努力、地域の人々の生活の向上に貢献した先人の働きについて多角的に考えたり、社会への関わり方を選択・判断したりして、表現することができる。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	(ア) 文化財や年中行事が受け継がれていること、それらは地域の歴史を伝えるものであることなどを、見学・調査したり地図などの資料で調べたりすることを通して理解する。 (イ) 先人は様々な苦心や努力を重ねて業績を成し遂げたことや、当時の人々の生活の向上や地域の発展に大きく貢献したことなどを、見学・調査したり地図などの資料で調べたりすることを通して理解する。	(ア) 歴史的背景や現在に至る経過、保存や継承のための取組などに着目して、人々の願いや努力を考え、表現する。 (イ) 当時の世の中の課題や人々の願いなどに着目して、先人の働きを考え、表現する。

※各学習内容（白色背景の部分）については、現行学習指導要領をもとに暫定的な内容を記載したものであり、今後、個別の学習内容については別途検討するものとする。
（その検討状況を踏まえて、必要に応じて高次の資質・能力を見直すこともあり得る。）

高次の資質・能力イメージ（案） <小学校 第5学年①>

第5学年

	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	○我が国の国土やその領域では、その自然条件と人々の生活や産業、国土の環境保全が関連して行われていることを理解する。	○位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などの視点に着目して、総合的に活用することで、自然条件と国民生活の関連や国土の環境保全について多角的に考えたり、社会への関わり方を選択・判断したりして、表現することができる。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
(1) ①我が国の国土の様子と国民生活	<p>(ア) 世界における我が国の国土の位置、国土の構成、領土の範囲などを、地図帳や地球儀、各種の資料で調べることを通して大まかに理解する。</p> <p>(イ) 我が国の国土の地形や気候の概要を理解するとともに、人々は自然環境に適応して生活していることを、地図帳や地球儀、各種の資料で調べることを通して理解する。</p>	<p>(ア) 世界の大陸と主な海洋、主な国の位置、海洋に囲まれ多数の島からなる国土の構成などに着目して、我が国の特色を考え、表現する。</p> <p>(イ) 地形や気候などに着目して、国土の自然環境の特色や国土の特色と国民生活との関連を考え、表現する。</p>
②我が国の国土の自然環境と国民生活との関連	<p>(ア) 我が国では、国土の自然条件との関係から様々な自然災害が起こりやすいこと、これからも発生する可能性があること、国や県などは、災害の種類や国土の自然条件に応じた対策や事業を進めていることなどを、地図帳や各種の資料で調べることを通して理解する。</p> <p>(イ) 我が国は、国土に占める森林面積の割合が高いこと、森林は国土の保全や水源の涵養などに大切な働きをしていること、森林はその育成や保護に従事している人々の取組により維持・管理されていることなどを、地図帳や各種の資料で調べることを通して理解する。</p> <p>(ウ) 我が国では、公害が発生して国民の健康や生活環境が脅かされてきたことや多くの人々の努力や協力により改善が図られてきたことなどを、地図帳や各種の資料で調べることを通して理解する。</p>	<p>(ア) 災害の種類や発生の位置や時期、防災対策などに着目して、自然条件との関連を考え、表現する。</p> <p>(イ) 森林資源の分布や働きなどに着目して、森林資源が果たす役割を考え、表現する。</p> <p>(ウ) 公害の発生時期や経過、人々の協力や努力などに着目して、公害防止の取組の働きを考え、表現する。</p>

※各学習内容（白色背景の部分）については、現行学習指導要領をもとに暫定的な内容を記載したものであり、今後、個別の学習内容については別途検討するものとする。
（その検討状況を踏まえて、必要に応じて高次の資質・能力を見直すこともあり得る。）

高次の資質・能力イメージ（案） <小学校 第5学年②>

第5学年		
(2) 我が国の農業や水産業における食料生産	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	○我が国の食料生産は、国土の自然条件を生かして営まれていることや、国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることを理解する。	○位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などの視点に着目して、総合的に活用することで、食料生産が国民生活に果たす役割を考えたり、これからの農業などの発展について多角的に考えたりして、表現することができる。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	(ア) 食料生産は国民の食生活を支えていること、食料の生産量は国民生活と関連して変化していること、食料の中には外国から輸入しているものがあることなどを、地図帳や地球儀、各種の資料で調べることを通して理解する。 (イ) 農業や水産業の盛んな地域の人々が、生産性や品質を高めるなど様々な工夫や努力を行っていること、費用が発生すること、輸送方法や販売方法を工夫することにより収益を上げていることなどを、地図帳や地球儀、各種の資料で調べることを通して理解する。	(ア) 生産物の種類や分布、生産量の変化、輸入など外国との関わりなどに着目して、食料生産が国民生活に果たす役割を考え、表現する。 (イ) 生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などに着目して、食料生産に関わる人々の働きを考え、表現する。
(3) 我が国の工業生産	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	○我が国の工業生産は、国民生活の向上に重要な役割を果たしていることを理解する。	○位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などの視点に着目して、総合的に活用することで、工業生産が国民生活に果たす役割を考えたり、これからの工業の発展について多角的に考えたりして、表現することができる。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	(ア) 我が国では様々な種類の工業生産が行われ、工業が盛んな地域は全国各地に分布していること、工業製品の改良と国民生活の向上とは深い関わりがあることなどを、地図帳や地球儀、各種の資料で調べることを通して理解する。 (イ) 工場で働く人々は様々な工夫や協力をしていること、工業生産には様々な工場が関連していること、優れた技術を生かして消費者の需要や社会の発展に応える研究開発などの努力を行っていることなどを、地図帳や地球儀、各種の資料で調べることを通して理解する。 (ウ) 原材料や工業製品の輸出入の特色や、輸出入や出荷には、海上輸送、航空輸送、陸上輸送などが使われていることなどを、地図帳や地球儀、各種の資料で調べることを通して理解する。	(ア) 工業の種類、工業の盛んな地域の分布、工業製品の改良などに着目して、工業生産が国民生活に果たす役割を考え、表現する。 (イ) 製造の工程、工場相互の協力関係、優れた技術などに着目して、我が国の工業生産の働きを考え、表現する。 (ウ) 交通網の広がり、外国との関わりなどに着目して、貿易や運輸の役割を考え、表現する。

※各学習内容（白色背景の部分）については、現行学習指導要領をもとに暫定的な内容を記載したものであり、今後、個別の学習内容については別途検討するものとする。
（その検討状況を踏まえて、必要に応じて高次の資質・能力を見直すこともあり得る。）

第5学年		
(4) 我が国の産業と情報との関わり	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	○情報を活用して発展する産業は、国民生活に大きな影響を及ぼしていることや国民生活を向上させていることを理解する。	○時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などの視点に着目して、総合的に活用することで、情報の活用について多角的に考えたり、情報化の進展に伴う産業の発展や国民生活の向上について多角的に考えたりして、表現することができる。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	<p>(ア) 放送、新聞などの産業は、正確な情報を分かりやすく速く伝えるために多種多様な情報を収集し、選択・加工していること、様々な情報媒体を活用していることなどを、聞き取り調査をしたり映像や新聞などの各種資料で調べたりすることを通して理解する。</p> <p>(イ) 多様で大量の情報を瞬時に収集・発信し、それらを活用することで産業が変化し発展していること、国民が情報通信機器を利用することにより、いつでも、どこでも様々なサービスを楽しむことができ、生活が向上していることなどを、聞き取り調査をしたり映像や新聞などの各種資料で調べたりすることを通して理解する。</p>	<p>(ア) 情報を集め発信するまでの工夫や努力などに着目して、放送や新聞などの産業が国民生活に果たす役割を考え、表現する。</p> <p>(イ) 情報の種類、情報の活用の仕方などに着目して、情報を生かして発展する産業が国民生活に果たす役割を考え、表現する。</p>

※各学習内容（白色背景の部分）については、現行学習指導要領をもとに暫定的な内容を記載したものであり、今後、個別の学習内容については別途検討するものとする。
（その検討状況を踏まえて、必要に応じて高次の資質・能力を見直すこともあり得る。）

高次の資質・能力イメージ（案） <小学校 第6学年①>

第6学年

(1) 我が国の政治の働き	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	○我が国の政治の働きは、現在の我が国の民主政治は日本国憲法の基本的な考え方に基づいていることや国民主権の考え方の下、国民生活の安定と向上を図る大切な働きをしていることを理解する。	○事象や人々の相互関係などの視点に着目して、総合的に活用することで、我が国の政治の働きについて考えたり、国民としての政治への関わり方について多角的に考えたりして、表現することができる。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	(ア) 日本国憲法は国家の理想、天皇の地位、国民としての権利及び義務など国家や国民生活の基本を定めていることや、現在の我が国の民主政治は日本国憲法の基本的な考え方に基づいていることを理解するとともに、立法、行政、司法の三権がそれぞれの役割を果たしていることを、見学・調査したり各種の資料で調べたりすることを通して理解する。 (イ) 国や地方公共団体の政治は国民生活と密接な関係をもっていること、それらの政治は国民主権の考え方を基本として、国民の願いを実現し国民生活の安定と向上を図るために大切な働きをしていることなどを、見学・調査したり各種の資料で調べたりすることを通して理解する。	(ア) 日本国憲法の基本的な考え方に着目して、日本国憲法が国民生活に果たす役割や、国会、内閣、裁判所と国民との関わりを考え、表現する。 (イ) 政策の内容や計画から実施までの過程、法令や予算との関わりなどに着目して、国民生活における政治の働きを考え、表現する。

※各学習内容（白色背景の部分）については、現行学習指導要領をもとに暫定的な内容を記載したものであり、今後、個別の学習内容については別途検討するものとする。
（その検討状況を踏まえて、必要に応じて高次の資質・能力を見直すこともあり得る。）

高次の資質・能力イメージ（案） <小学校 第6学年②>

第6学年

(2) 我が国の歴史上の主な事象	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	○我が国の歴史上の主な事象を手掛かりに、大まかな歴史を理解するとともに、関連する先人の業績、優れた文化遺産を理解する。	○時期や時間の経過などの視点に着目して、総合的に活用することで、我が国の歴史の展開を考えるとともに、歴史を学ぶ意味を考え、表現することができる。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	<p>○遺跡や文化財、地図や年表などの資料で調べて、次のことを理解する。</p> <p>(ア) 狩猟・採集や農耕の生活、古墳、大和朝廷（大和政権）による統一の様子を手掛かりに、むらかくにへと変化したこと、その際、神話・伝承を手掛かりに、国の形成に関する考え方などに関心をもつこと</p> <p>(イ) 大陸文化の摂取、大化の改新、大仏造営の様子を手掛かりに、天皇を中心とした政治が確立されたこと</p> <p>(ウ) 貴族の生活や文化を手掛かりに、日本風の文化が生まれたこと</p> <p>(エ) 源平の戦い、鎌倉幕府の始まり、元との戦いを手掛かりに、武士による政治が始まったこと</p> <p>(オ) 京都の室町に幕府が置かれた頃の代表的な建造物や絵画を手掛かりに、今日の生活文化につながる室町文化が生まれたこと</p> <p>(カ) キリスト教の伝来、織田・豊臣の天下統一を手掛かりに、戦国の世が統一されたこと</p> <p>(キ) 江戸幕府の始まり、参勤交代や鎖国などの幕府の政策、身分制を手掛かりに、武士による政治が安定したこと</p> <p>(ク) 歌舞伎や浮世絵、国学や蘭学を手掛かりに、町人の文化が栄え新しい学問がおこったこと</p> <p>(ケ) 黒船の来航、廃藩置県や四民平等などの改革、文明開化などを手掛かりに、我が国が明治維新を機に欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めたこと</p> <p>(コ) 大日本帝国憲法の発布、日清・日露の戦争、条約改正、科学の発展などを手掛かりに、我が国の国力が充実し国際的地位が向上したこと</p> <p>(サ) 日中戦争や我が国に関わる第二次世界大戦、日本国憲法の制定、オリンピック・パラリンピックの開催などを手掛かりに、戦後我が国は民主的な国家として出発し、国民生活が向上し、国際社会の中で重要な役割を果たしてきたこと</p>	世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、我が国の歴史の展開を考えるとともに、歴史を学ぶ意味を考え、表現する。

※各学習内容（白色背景の部分）については、現行学習指導要領をもとに暫定的な内容を記載したものであり、今後、個別の学習内容については別途検討するものとする。
（その検討状況を踏まえて、必要に応じて高次の資質・能力を見直すこともあり得る。）

第6学年

(3) グローバル化する世界と日本の役割	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	○我が国は、他国と交流し、異なる文化や習慣を尊重し合うことが大切であること、平和な世界の実現のために国際連合の一員として重要な役割を果たしたり、諸外国の発展のために援助や協力を行ったりしていることを理解する。	○位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などの視点に着目して、総合的に活用することで、国際交流の果たす役割や国際社会において我が国が果たしている役割を考えたり、世界の人々と共に生きていくために大切なことや、我が国が国際社会において果たすべき役割などを多角的に考えたり選択・判断したりして、表現することができる。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	(ア) 外国の人々の生活の様子には違いがあること、その違いがその国の文化や習慣を特徴付けていること、国際的なスポーツ交流や様々な文化を通じた国際交流が行われていることなどを、地図帳や地球儀、各種の資料で調べることを通して理解する。 (イ) 国際連合の役割や我が国が平和な国際社会や諸外国の発展に貢献していること、今後も国際社会の平和と発展のために果たさなければならない責任と義務があることなどを、地図帳や地球儀、各種の資料で調べることを通して理解する。	(ア) 外国の人々の生活の様子などに着目して、国際交流の果たす役割を考え、表現する。 (イ) 地球規模で発生している課題の解決に向けた連携・協力などに着目して、国際社会において我が国が果たしている役割を考え、表現する。

※各学習内容（白色背景の部分）については、現行学習指導要領をもとに暫定的な内容を記載したものであり、今後、個別の学習内容については別途検討するものとする。
（その検討状況を踏まえて、必要に応じて高次の資質・能力を見直すこともあり得る。）

（2）中学校社会科 地理的分野

A 世界と日本の地域構成

(1)地域構成	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	○緯度や経度、世界の大陸分布や日本の領域などを対象として、世界と日本の様々な地域を学習するための大まかな地域構成の特色を理解する。	○位置や分布などに関わる視点に着目して、世界と日本の空間的な広がりについて、世界や日本の諸事象や様々な地域の特色を学ぶ座標軸である地域構成を大観して、多面的・多角的に考察し、表現することができる。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	<p>(ア) ①から③について、世界の地域構成を大まかに捉えて理解する。 ①緯度と経度、②大陸と海洋の分布、③主な国々の名称と位置</p> <p>(イ) ①から③について、日本の地域構成を大まかに捉えて理解する。 ①我が国の国土の位置、②世界各地との時差、 ③領域の範囲や変化とその特色</p>	<p>(ア) 世界の地域構成の特色を、大陸と海洋の分布や主な国の位置、緯度や経度などに着目して多面的・多角的に考察し、表現する</p> <p>(イ) 日本の地域構成の特色を、周辺の海洋の広がりや国土を構成する島々の位置などに着目して多面的・多角的に考察し、表現する</p>

※各学習内容（白色背景の部分）については、現行学習指導要領をもとに暫定的な内容を記載したものであり、今後、個別の学習内容については別途検討するものとする。
（その検討状況を踏まえて、必要に応じて高次の資質・能力を見直すこともあり得る。）

高次の資質・能力イメージ（案） <中学校 地理的分野②>

B 世界の様々な地域

(1)世界の各地の人々の生活と環境	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	○世界の多様な地域を対象として、世界各地の人々の生活が、自然的及び社会的条件から影響を受けたり、条件に影響を与えたりしながら多様性が生じることを理解する。	○人間生活と自然環境との関係や変容などに関わる視点に着目して、世界の多様な地域における人々の生活について、その特色や変容の理由を、自然的及び社会的な影響から多面的・多角的に考察し、表現することができる。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	(ア) 人々の生活は、その生活が営まれる場所の自然及び社会的条件から影響を受けたり、その場所の自然及び社会的条件に影響を与えたりすることを理解する。 (イ) 世界の人々の生活や変容による環境の多様性を理解する。その際、世界の主な宗教の分布を理解する。	世界各地における人々の生活の特色やその変容の理由を、その生活が営まれる場所の自然及び社会的条件などに着目して多面的・多角的に考察し、表現する。
(2)世界の諸地域	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	○世界の各州を対象として、地域内で見られる地球的課題と関連付けながら地域的特色を理解する。	○地域間の結び付きやスケール、変容などに関わる視点に着目して、世界の各地域で見られる地球的課題の要因や影響を多面的・多角的に考察したり、地球的課題をその地域的特色や変容の過程と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現することができる。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	①アジア ②ヨーロッパ ③アフリカ ④北アメリカ ⑤南アメリカ ⑥オセアニア上の①から⑥の各州について (ア) 世界各地で顕在化している地球的課題は、それが見られる地域の地域的特色の影響を受けて、現れ方が異なることを理解する。 (イ) 世界の各州に暮らす人々の生活を基に、各州の地域的特色を大まかに捉えてを理解する。	①アジア ②ヨーロッパ ③アフリカ ④北アメリカ ⑤南アメリカ ⑥オセアニア上の①から⑥までの世界の各州において、州という地域の広がりや地域内の結び付きなどに着目して、地域で見られる地球的課題の要因や影響を、それらの地域的特色と関連付けて大観し、多面的・多角的に考察し、表現する。

※各学習内容（白色背景の部分）については、現行学習指導要領をもとに暫定的な内容を記載したものであり、今後、個別の学習内容については別途検討するものとする。
（その検討状況を踏まえて、必要に応じて高次の資質・能力を見直すこともあり得る。）

高次の資質・能力イメージ（案） <中学校 地理的分野③>

C 日本の様々な地域

(1)地域調査の手法	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	○学校周辺の地域を対象として、地域の特色を明らかにするために地域調査の手法を理解する。	○人間生活と自然環境との関係などに関わる視点に着目して、学校周辺の地域について主題を設定し、文献や調査から地理的な事象を見出し、事象を関連付けて追究してまとめることを通して、手法やその結果を多面的・多角的に考察し、表現することができる。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	(ア) 観察や野外調査、文献調査を行う際の視点や方法、地理的なまとめ方の基礎を理解する。 (イ) 地形図や主題図の読図、目的や用途に適した地図の作成などの地理的技能を身に付ける。	地域調査において、対象となる場所の特徴などに着目して、適切な主題や調査、まとめとなるように、調査の手法やその結果を多面的・多角的に考察し、表現する。
(2)日本の地域的特色と地域区分	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	○日本を複数の項目で区分することで、区分された特色ある地域から日本が構成されていることや、日本全体の地域的特色を理解する。	○位置や分布、人間と自然環境との関係、スケールなどに関わる視点に着目して、複数の項目について日本を地域区分し、区分された地域の共通点や差異、分布から、日本の地域的特色を多面的・多角的に考察し、表現することができる。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	①自然環境、②人口、③資源・エネルギーと産業、④交通・通信の項目を取り上げ、以下の(ア)から(カ)を理解し、(カ)の技能を身に付ける。 (ア) 日本の自然環境に関する特色 (イ) 日本の人口に関する特色 (ウ) 日本の資源・エネルギーと産業に関する特色 (エ) 国内各地の結び付きや日本と世界との結び付きの特色 (オ) (ア)から(エ)までを踏まえた我が国の国土の特色を大まかに捉える (カ) 日本や国内地域に関する各種の主題図や資料を基に、地域区分をする技能	・①自然環境、②人口、③資源・エネルギーと産業、④交通・通信を取り上げ、それぞれの地域区分を、地域の共通点や差異、分布などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現する ・日本の地域的特色を、①から④の項目に基づく地域区分などに着目して、それらを関連付けて多面的・多角的に考察し、表現する

※各学習内容（白色背景の部分）については、現行学習指導要領をもとに暫定的な内容を記載したものであり、今後、個別の学習内容については別途検討するものとする。
（その検討状況を踏まえて、必要に応じて高次の資質・能力を見直すこともあり得る。）

高次の資質・能力イメージ（案） <中学校 地理的分野④>

C 日本の様々な地域

(3)日本の 諸地域	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	○幾つかに区分した日本の諸地域を対象として、日本の諸地域の地域的特色や課題を理解する。	○地域間の結び付きやスケール、変容などの視点に着目して、日本の諸地域における地域の特徴を、適切な事象を取り上げ、他の事象や課題と有機的に関連付けて、多面的・多角的に考察し、表現することができる。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	<p>(ア) 幾つかに区分した日本のそれぞれの地域について、その地域的特色や地域の課題を理解する。</p> <p>(イ) 以下の①から⑤までの考察の仕方を取り上げた特色ある事象と、それに関連する他の事象や、そこで生ずる課題を理解する。</p> <p>① 自然環境を中核とした考察の仕方</p> <p>② 人口や都市・村落を中核とした考察の仕方</p> <p>③ 産業を中核とした考察の仕方</p> <p>④ 交通や通信を中核とした考察の仕方</p> <p>⑤ その他の事象を中核とした考察の仕方</p>	<p>日本の諸地域において、それぞれ①から⑤までで扱う中核となる事象の成立条件を、地域の広がりや地域内の結び付き、人々の対応などに着目して、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し、表現する。</p> <p>① 自然環境を中核とした考察の仕方</p> <p>② 人口や都市・村落を中核とした考察の仕方</p> <p>③ 産業を中核とした考察の仕方</p> <p>④ 交通や通信を中核とした考察の仕方</p> <p>⑤ その他の事象を中核とした考察の仕方</p>
(4)地域の 在り方	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	○分野のまとめとして、適切な地域と課題を取り上げ、持続可能な社会づくりの視点から、課題解決に向けて考察、構想したことを適切に表現する手法を理解する。	○地域的な課題解決の取組に関する理解を基に、地域間の結び付きやスケール、変容などの視点に着目して、地域で見られる地理的な課題について、持続可能な社会づくりの視野から、類似の課題が見られる他の地域と比較したり、関連付けたりするなどして、多面的・多角的に考察、構想し、表現することができる。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	<p>(ア) 地域の実態や課題解決のための取組を理解する。</p> <p>(イ) 地域的な課題の解決に向けて考察、構想したことを適切に説明、議論しまとめる手法を理解する。</p>	<p>地域の在り方を、地域の結び付きや地域の変容、持続可能性などに着目し、そこで見られる地理的な課題について多面的・多角的に考察、構想し、表現する。</p>

※各学習内容（白色背景の部分）については、現行学習指導要領をもとに暫定的な内容を記載したものであり、今後、個別の学習内容については別途検討するものとする。
（その検討状況を踏まえて、必要に応じて高次の資質・能力を見直すこともあり得る。）

(3) 高等学校地理歴史科 地理総合

A 地図や地理情報システムで捉える現代世界

(1) 地図や地理情報システムと現代世界	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	○様々な目的や場面で役立つ地図や地理情報システム（GIS）を活用して、現代世界の地域構成の特色や国内や国家間の結び付きを理解する。	○位置や分布などに関わる視点に着目して、地図や地理情報システム（GIS）などに関わる地理的技能を活用して、現代世界の地域構成や地図や地理情報システム（GIS）の役割や活用の仕方を多面的・多角的に考察し、表現することができる。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	<p>(ア) 現代世界の地域構成を示した様々な地図の読図などを基に、以下の①から③について理解する。</p> <p>①時位や時差，②日本の位置と領域，③国内や国家間の結び付きなど。</p> <p>(イ) 日常生活の中で見られる様々な地図の読図などを基に，地図や地理情報システムの役割や有用性などを理解する。</p> <p>(ウ) 現代世界の様々な地理情報について，地図や地理情報システムなどを用いて，その情報を収集し，読み取り，まとめる基礎的・基本的な技能を身に付ける。</p>	<p>(ア) 位置や範囲などに着目して，現代世界の地域構成について，主題を設定し，世界的視野から見た日本の位置，国内や国家間の結び付きなどを多面的・多角的に考察し，表現する。</p> <p>(イ) 位置や範囲，縮尺などに着目して地図や地理情報システムについて，目的や用途，内容，適切な活用の仕方などを多面的・多角的に考察し，表現する。</p>

※各学習内容（白色背景の部分）については、現行学習指導要領をもとに暫定的な内容を記載したものであり、今後、個別の学習内容については別途検討するものとする。
（その検討状況を踏まえて、必要に応じて高次の資質・能力を見直すこともあり得る。）

B 国際理解と国際協力

(1) 生活文化の多様性と国際理解	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	○世界の多様な生活文化を対象として、世界の人々の生活文化が、自然及び社会的環境から影響を受けたり、環境に影響を与えたりしながら多様性が生じたり変容したりするかを理解するとともに、グローバル化の進展による自他の文化の尊重と国際理解の重要性を理解する。	○人間生活と自然環境との関係や地域間の結び付き、変容などに関わる視点に着目して、世界各地における人々の衣食住を中心とする生活文化や、慣習や規範、宗教などの生活様式について、自然及び社会的環境の影響による多様性と変容を、多面的・多角的に考察し、表現することができる。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	(ア) 世界の人々の特色ある生活文化を基に、人々の生活文化が地理的環境から影響を受けたり、影響を与えたりして多様性をもつことや、地理的環境の変化によって変容することなどを理解する (イ) 世界の人々の特色ある生活文化を基に、自他の文化を尊重し国際理解を図ることの重要性などを理解する。	(ア) 世界の人々の生活文化について、その生活文化が見られる場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりなどに着目して、主題を設定し、多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察し、表現する。
(2) 地球的課題と国際協力	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	○世界各地でみられる様々な地球的課題を対象として、現状や要因、解決の方向性や、課題相互の関連性を捉え、持続可能な社会の実現に向けた各国の取組や、国際協力の必要性を理解する。	○地域間の結び付きやスケール、変容などに関わる視点に着目して、世界各地で見られる様々な地球的課題について、現状や要因、解決の方向性などを多面的・多角的に考察し、表現することができる。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	(ア) 世界各地で見られる以下の①から④の地球的課題の、各地で共通する傾向性や課題相互の関連性などについて大まかに捉えて理解する。 (イ) 世界各地で見られる以下の①から④の地球的課題の解決には、持続可能な社会の実現を目指した各国の取組や国際協力が必要であることを理解する。 ①地球環境問題、②資源・エネルギー問題、③人口・食料問題、④居住・都市問題	(ア) 世界各地で見られる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などの地球的課題について、地域の結び付きや持続可能な社会づくりなどに着目して、主題を設定し、現状や要因、解決の方向性などを多面的・多角的に考察し、表現すること。

※各学習内容（白色背景の部分）については、現行学習指導要領をもとに暫定的な内容を記載したものであり、今後、個別の学習内容については別途検討するものとする。
（その検討状況を踏まえて、必要に応じて高次の資質・能力を見直すこともあり得る。）

C 持続可能な地域づくりと私たち

(1) 自然環境と防災	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	○地形図やハザードマップなどを活用して、自然環境の特色と自然災害の関係性、地域性を踏まえた災害の備えや対応について理解するとともに、防災の重要性について理解する。	○人間生活と自然環境との関係や変容などに関わる視点に着目して、ハザードマップなどに関わる地理的技能を活用し、自然及び社会条件との関わりなど地域性を踏まえた防災について、多面的・多角的に考察し、表現することができる。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	(ア) 地域の自然環境の特色と日本及び世界における、以下の①から④などの自然災害への、備えや対応との関わりとともに、自然災害の規模や頻度、地域性を踏まえた備えや対応の重要性などを理解する。 ①地震災害、②津波災害、③風水害、④火山災害など (イ) 様々な自然災害に対応したハザードマップや新旧地形図をはじめとする各種の地理情報について、その情報を収集し、読み取り、まとめる地理的技能を身に付ける。	(ア) 地域性を踏まえた防災について、自然及び社会的条件との関わり、地域の共通点や差異、持続可能な地域づくりなどに着目して、主題を設定し、自然災害への備えや対応などを多面的・多角的に考察し、表現する。
(2) 生活圏の調査と地域の展望	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	○科目のまとめとして、持続可能な地域づくりを目指した生活圏の調査を通して、地理的な課題の解決に向けた様々な立場からの取組や探究する手法を理解する。	○持続可能な地域づくりに関する課題解決の取組の理解を基に、地域間の結び付きやスケール、変容などに関わる視点に着目して、生活圏の地理的な課題や課題解決に求められる取組を、多面的・多角的に考察、構想、表現し、よりよい社会の実現を展望することができる。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	(ア) 生活圏の調査を基に、地理的な課題の解決に向けた取組や探究する手法などについて理解する。	(ア) 生活圏の地理的な課題について、生活圏内や生活圏外との結び付き、地域の成り立ちや変容、持続可能な地域づくりなどに着目して、主題を設定し、課題解決に求められる取組などを多面的・多角的に考察、構想し、表現する。

※各学習内容（白色背景の部分）については、現行学習指導要領をもとに暫定的な内容を記載したものであり、今後、個別の学習内容については別途検討するものとする。
（その検討状況を踏まえて、必要に応じて高次の資質・能力を見直すこともあり得る。）

（4）高等学校地理歷史科 地理探究

高次の資質・能力イメージ（案） <地理探究①>

A 現代世界の系統地理的考察

(1) 自然環境	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	○地形、気候、生態系などの自然環境に関わる諸事象を対象として、空間的な規則性や傾向性を理解するとともに、関連する地球的課題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解する。	○人間生活と自然環境との関係やスケールなどに関わる視点に着目して、地形、気候、生態系などの自然環境に関わる諸事象について、空間的な規則性、傾向性や、関連する地球的課題の要因や動向などを考察し、表現することができる。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	(ア) 以下の①から③の事象の空間的な規則性、傾向性や、地球環境問題の現状や要因、解決に向けた取組などを理解する。 ①地形 ②気候 ③生態系など	(ア) 場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりなどに着目して、地形、気候、生態系などに関わる諸事象について、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し、表現する。
(2) 資源、産業	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	○資源・エネルギー、農業、工業などの資源、産業に関わる諸事象を対象として、空間的な規則性や傾向性を理解するとともに、関連する地球的課題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解する。	○人間生活と自然環境との関係や地域間の結び付きなどに関わる視点に着目して、資源・エネルギー、農業、工業などの資源、産業に関わる諸事象について、空間的な規則性、傾向性や、関連する地球的課題の要因や動向などを考察し、表現することができる。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	(ア) 以下の①から③の事象の空間的な規則性、傾向性や、資源・エネルギー、食料問題の現状や要因、解決に向けた取組などを理解する。 ①資源・エネルギー ②農業 ③工業など	(ア) 資源・エネルギーや農業、工業などに関わる諸事象について、場所の特徴や場所の結び付きなどに着目して、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し、表現する。

※各学習内容（白色背景の部分）については、現行学習指導要領をもとに暫定的な内容を記載したものであり、今後、個別の学習内容については別途検討するものとする。
（その検討状況を踏まえて、必要に応じて高次の資質・能力を見直すこともあり得る。）

高次の資質・能力イメージ（案） <地理探究②>

A 現代世界の系統地理的考察

(3) 交通・通信, 観光	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	○交通・通信網と物流、人の移動に関する運輸、観光などに関わる諸事象を対象として、空間的な規則性や傾向性を理解するとともに、関連する地球的課題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解する。	○人間生活と自然環境との関係や地域間の結び付きなどに関わる視点に着目して、交通・通信網と物流、人の移動に関する運輸、観光などに関わる諸事象について、空間的な規則性、傾向性や、関連する地球的課題の要因や動向などを考察し、表現することができる。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	(ア) 以下の①及び②の事象の空間的な規則性、傾向性や、交通・通信、観光に関わる問題の現状や要因、解決に向けた取組などを理解する。 ①交通・通信網と物流 ②人の移動に関する運輸、観光などに関わる諸事象	(ア) 交通・通信網と物流や人の移動に関する運輸、観光などに関わる諸事象について、場所の特徴や場所の結び付きなどに着目して、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し、表現する。
(4) 人口, 都市・村落	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	○人口、都市・村落などに関わる諸事象を対象として、空間的な規則性や傾向性を理解するとともに、関連する地球的課題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解する。	○人間生活と自然環境との関係や地域間の結び付きなどに関わる視点に着目して、人口、都市・村落などに関わる諸事象について、空間的な規則性、傾向性や、関連する地球的課題の要因や動向などを考察し、表現することができる。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	(ア) 以下の①及び②の事象の空間的な規則性、傾向性や、人口、居住・都市問題の現状や要因、解決に向けた取組などを理解する。 ①人口 ②都市・村落など	(ア) 人口、都市・村落などに関わる諸事象について、場所の特徴や場所の結び付きなどに着目して、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し、表現する。

※各学習内容（白色背景の部分）については、現行学習指導要領をもとに暫定的な内容を記載したものであり、今後、個別の学習内容については別途検討するものとする。
（その検討状況を踏まえて、必要に応じて高次の資質・能力を見直すこともあり得る。）

A 現代世界の系統地理的考察

(5) 生活文化、民族・宗教	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	○生活文化、民族・宗教などに関わる諸事象を対象として、空間的な規則性や傾向性を理解するとともに、関連する地球的課題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解する。	○人間生活と自然環境との関係や地域間の結び付きなどに関わる視点に着目して、生活文化、民族・宗教などに関わる諸事象の空間的な規則性、傾向性や、関連する地球的課題の要因や動向などを考察し、表現することができる。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	(ア) 以下の①及び②の事象の空間的な規則性、傾向性や、民族、領土問題の現状や要因、解決に向けた取組などを理解する。 ①生活文化 ②民族・宗教など	(ア) 生活文化、民族・宗教などに関わる諸事象について、場所の特徴や場所の結び付きなどに着目して、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し、表現する。

※各学習内容（白色背景の部分）については、現行学習指導要領をもとに暫定的な内容を記載したものであり、今後、個別の学習内容については別途検討するものとする。
（その検討状況を踏まえて、必要に応じて高次の資質・能力を見直すこともあり得る。）

B 現代世界の地誌的考察

(1) 現代世界の地域区分	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	○世界の諸地域は、目的による様々な指標で地域区分することが可能であることを理解し、地域には多様な側面やスケールがあるという地域の概念や現代世界の多様性を理解する。	○位置や分布、地域間の結び付き、スケールなどに関わる視点に着目して、世界や世界の諸地域について、目的による複数の指標に基づいて地域区分された分布図を比較し、区分された地域の共通点や差異、分布から、地域の捉え方を多面的・多角的に考察し、表現することができる。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	(ア) 世界や世界の諸地域に関する各種の主題図や資料を基に、以下の①から③などについて理解する。 ①世界を幾つかの地域に区分する方法、②地域の概念、③地域区分の意義など。 (イ) 世界や世界の諸地域について、各種の主題図や資料を踏まえて地域区分をする地理的技能を身に付ける。	(ア) 世界や世界の諸地域の地域区分について、地域の共通点や差異、分布などに着目して、地域の捉え方などを多面的・多角的に考察し、表現する。
(2) 現代世界の諸地域	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	○地域区分した世界の諸地域を対象として、世界の諸地域の地域的特色や地球的課題、地域間の結び付き、地域の構造や変容を理解する。	○地域間の結び付きやスケール、変容などに関わる視点に着目して、現代世界の諸地域について、世界の諸地域や地球的課題を多面的・多角的に考察し、表現することができる。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	(ア) 幾つかの地域に区分した現代世界の諸地域を基に、以下の①②などについて理解する。 ①諸地域に見られる地域的特色、②地球的課題など (イ) 幾つかの地域に区分した現代世界の諸地域を基に、地域の結び付き、構造や変容などを地誌的に考察する方法などを理解する。	(ア) 現代世界の諸地域について、地域の結び付き、構造や変容などに着目して、地域的特色や地球的課題などを多面的・多角的に考察し、表現する。

※各学習内容（白色背景の部分）については、現行学習指導要領をもとに暫定的な内容を記載したものであり、今後、個別の学習内容については別途検討するものとする。
（その検討状況を踏まえて、必要に応じて高次の資質・能力を見直すこともあり得る。）

C 現代世界におけるこれからの日本の国土像

(1) 持続可能な国土像の探究	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	○科目のまとめとして、日本の地理的な諸課題の解決の方向性や将来の国土の在り方の構想を通して、持続可能な国土像の在り方を探究する手法の重要性とその手法について理解する。	○持続可能な国土像に関する課題解決の取組の理解を基に、地域間の結び付きやスケール、変容などに関わる視点に着目して、これからの日本の国土像について、地理的な課題の解決に向けた取組を考察・構想し、よりよい社会の実現を展望することができる。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	(ア) 現代世界におけるこれからの日本の国土像の探究を基に、我が国が抱える地理的な諸課題の解決の方向性や将来の国土の在り方などを構想することの重要性や、探究する手法などを理解する。	(ア) 現代世界におけるこれからの日本の国土像について、地域の結び付き、構造や変容、持続可能な社会づくりなどに着目して、我が国が抱える地理的な諸課題の解決の方向性や将来の国土の在り方などを多面的・多角的に探究し、表現する。

※各学習内容（白色背景の部分）については、現行学習指導要領をもとに暫定的な内容を記載したものであり、今後、個別の学習内容については別途検討するものとする。
（その検討状況を踏まえて、必要に応じて高次の資質・能力を見直すこともあり得る。）

(5) 中学校社会科 歴史的分野

高次の資質・能力イメージ（案） <中学校 歴史的分野①>

A 歴史との対話		
(1)歴史との対話 →(A(1)(2)を統合	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	○文化財や諸資料を活用し、身近な地域の歴史的な特徴を理解するとともに、過去からの経緯を理解するための情報を獲得する方法や、時間軸で整理する技能を身に付ける。	○時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響、歴史と私たちとのつながりなどの視点に着目して、地域などの空間を設定し、根拠を踏まえて過去の事象と時代区分との関わりについて整理したり、特徴を考察して表現したりすることができる。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	<p>(ア) （私たちと歴史）</p> <ul style="list-style-type: none"> 年代の表し方や時代区分の意味や意義を理解する。 資料から歴史に関わる情報を読み取ったり、年表などにまとめたりする技能を身に付ける。 <p>(イ) （身近な地域の歴史）</p> <ul style="list-style-type: none"> 具体的な事柄との関わりの中で、地域の歴史について調べたり、収集した情報を年表などにまとめたりするなどの技能を身に付ける。 	<p>(ア)</p> <ul style="list-style-type: none"> 時代区分や時期区分が多様であることや、基本的な区分について、相互の関係について理解する。 時期や年代、推移、現在の私たちとのつながりなどに着目して、小学校での学習を踏まえて歴史上の人物や文化財、出来事などから適切なものを取り上げ、時代区分との関わりなどについて考察し表現する。 <p>(イ) 比較や関連、時代的な背景や地域的な環境、歴史と私たちとのつながりなどに着目して、地域に残る文化財や諸資料を活用して、身近な地域の歴史的な特徴を多面的・多角的に考察し、表現する。</p>

※各学習内容（白色背景の部分）については、現行学習指導要領をもとに暫定的な内容を記載したものであり、今後、個別の学習内容については別途検討するものとする。
（その検討状況を踏まえて、必要に応じて高次の資質・能力を見直すこともあり得る。）

高次の資質・能力イメージ（案） <中学校 歴史的分野②>

B 近世までの日本とアジア		
(1) 古代までの日本	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	○列島周辺地域との関係を背景に、日本列島に国家が形成され、特徴的な文化が育まれたことについて理解する。	○時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響などの視点に着目して、古代の日本について多面的・多角的に考察し、国家・社会の形成などについて時代の特色を大観して表現することができる。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	<p>(ア) （世界の古代文明や宗教のおこり） ・次の①及び②などを題材に、世界の各地で文明が築かれたことを理解する。 ①世界の古代文明 ②宗教のおこり</p> <p>(イ) （日本列島における国家形成） ・次の①及び②などを題材に、東アジアの文明の影響を受けながら我が国で国家が形成されていったことを理解する。 ①日本列島における農耕の広まりと生活の変化や当時の人々の信仰 ②大和朝廷（大和政権）による統一の様子と東アジアとの関わり</p> <p>(ウ) （律令国家の形成） ・次の①及び②などを題材に、東アジアの文物や制度を積極的に取り入れながら国家の仕組みが整えられ、その後、天皇や貴族による政治が展開したことを理解する。 ①律令国家の確立に至るまでの過程 ②摂関政治</p> <p>(エ) （古代の文化と東アジアとの関わり） ・次の①及び②などを題材に、国際的な要素をもった文化が栄え、それらを基礎としながら文化の国風化が進んだことを理解する。 ①仏教の伝来とその影響 ②仮名文字の成立</p>	<p>(ア) 古代文明や宗教が起こった場所や環境などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、世界の古代文明や宗教のおこりについて、多面的・多角的に考察し、表現する。</p> <p>(イ) 農耕の広まりや生産技術の発展、東アジアとの接触や交流と政治や文化の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、日本列島における国家形成について、多面的・多角的に考察し、表現する。</p> <p>(ウ) 東アジアとの接触や交流と政治や文化の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、律令国家の形成について、多面的・多角的に考察し、表現する。</p> <p>(エ) 東アジアとの接触や交流と政治や文化の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、古代の文化と東アジアとの関わりについて、多面的・多角的に考察し、表現する。</p>

※各学習内容（白色背景の部分）については、現行学習指導要領をもとに暫定的な内容を記載したものであり、今後、個別の学習内容については別途検討するものとする。
（その検討状況を踏まえて、必要に応じて高次の資質・能力を見直すこともあり得る。）

高次の資質・能力イメージ（案） <中学校 歴史的分野③>

B 近世までの日本とアジア		
(2) 中世の日本	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	○列島周辺地域との関係やユーラシアの状況を背景に、武家政治が公家や宗教を含めた多様な勢力の中で展開したことや、その中で民衆の成長により形成された社会や多様な文化について理解する。	○時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響などの視点に着目して、中世の日本について多面的・多角的に考察し、古代との比較などから時代の特色を大観して表現することができる。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	<p>(ア) （武家政治の成立とユーラシアの交流）</p> <p>・次の①及び②などを題材に、武士が台頭して主従の結び付きや武力を背景とした武家政権が成立し、その支配が広まった、また、元寇がユーラシアの変化の中で起こったことを理解する。</p> <p>① 鎌倉幕府の成立</p> <p>② 元寇（モンゴル帝国の襲来）</p> <p>(イ) （武家政治の展開と東アジアの動き）</p> <p>・次の①及び②などを題材に、武家政治の展開とともに、東アジア世界との密接な関わりが見られたことを理解する。</p> <p>① 南北朝の争乱と室町幕府</p> <p>② 日明貿易と琉球の国際的な役割</p> <p>(ウ) （民衆の成長と新たな文化の形成）</p> <p>・次の①から④などを題材に、民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれたことを理解する。</p> <p>① 農業など諸産業の発達</p> <p>② 畿内を中心とした都市や農村における自治的な仕組みの成立</p> <p>③ 武士や民衆などの多様な文化の形成</p> <p>④ 応仁の乱後の社会的な変動</p>	<p>(ア) 武士の政治への進出、東アジアにおける交流などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、武家政治の成立とユーラシアの交流について、多面的・多角的に考察し、表現する。</p> <p>(イ) 武士の政治の展開、東アジアにおける交流などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、武家政治の展開と東アジアの動きについて、多面的・多角的に考察し、表現する。</p> <p>(ウ) 農業や商工業の発達などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、民衆の成長と新たな文化の形成について、多面的・多角的に考察し、表現する。</p>

※各学習内容（白色背景の部分）については、現行学習指導要領をもとに暫定的な内容を記載したものであり、今後、個別の学習内容については別途検討するものとする。
（その検討状況を踏まえて、必要に応じて高次の資質・能力を見直すこともあり得る。）

高次の資質・能力イメージ（案） ＜中学校 歴史的分野④＞

B 近世までの日本とアジア

	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	○ヨーロッパの諸勢力との接触や列島周辺地域との関係を背景に、統一的政治権力の形成や諸政策とその意図、それらによって生み出された安定的な情報や人や物のつながりが経済活動や文化の発達を促したこと、国内外の情勢の変化が生み出した諸課題への人々の対応について理解する。	○時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響などの視点に着目して、近世の日本について多面的・多角的に考察し、中世との比較などから時代の特色を大観して表現することができる。
(3) 近世の日本	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	<p>(ア) （世界の動きと統一事業）</p> <p>・次の①から③などを題材に、近世社会の基礎がつけられたことを理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① ヨーロッパ人来航の背景とその影響 ② 織田・豊臣による統一事業とその当時の対外関係、 ③ 武将や豪商などの生活文化の展開 <p>(イ) （江戸幕府の成立と対外関係）</p> <p>・次の①から③などを題材に、幕府と藩による支配が確立したことを理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 江戸幕府の成立と大名統制 ② 身分制と農村の様子 ③ 鎖国などの幕府の対外政策と対外関係 <p>(ウ) （産業の発達と町人文化）</p> <p>・次の①及び②などを題材に、町人文化が都市を中心に形成されたことや、各地方の生活文化が生まれたことを理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 産業や交通の発達 ② 教育の普及と文化の広がり <p>(エ) （幕府の政治の展開）</p> <p>・次の①から③などを題材に、幕府の政治の社会変化への対応を理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 社会の変動や欧米諸国の接近 ② 幕府の政治改革 ③ 新しい学問・思想の動き 	<p>(ア) 交易の広がりとその影響、統一政権の諸政策の目的、文化の担い手の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、世界の動きと統一事業について、多面的・多角的に考察し、表現する。</p> <p>(イ) 幕府の政策の目的と社会の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、江戸幕府の成立と対外関係について、多面的・多角的に考察し、表現する。</p> <p>(ウ) 産業の発達と文化の担い手の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、産業の発達と町人文化について、多面的・多角的に考察し、表現する。</p> <p>(エ) 社会の変化と幕府の政策の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、幕府の政治の展開について、多面的・多角的に考察し、表現する。</p>

※各学習内容（白色背景の部分）については、現行学習指導要領をもとに暫定的な内容を記載したものであり、今後、個別の学習内容については別途検討するものとする。
（その検討状況を踏まえて、必要に応じて高次の資質・能力を見直すこともあり得る。）

高次の資質・能力イメージ（案） <中学校 歴史的分野⑤>

C 近現代の日本と世界		
(1) 近代 (前半)の 日本と世界	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	○欧米諸国の動向や近隣の諸地域との関係を背景に、日本の近代国家の形成と、近代的な社会や文化の形成について理解する。	○時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響、現在とのつながりなどの視点に着目して、近代前半の日本について多面的・多角的に考察し、それ以前との比較などから時代の特徴を大観して表現することができる。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	(ア) (欧米における近代社会の成立とアジア諸国の動き) ・次の①及び②などを題材に、欧米諸国が近代社会を成立させてアジアへ進出したことを理解する。 ①欧米諸国における産業革命や市民革命 ②アジア諸国の動き	(ア) 工業化の進展と政治や社会の変化、世界の動きと我が国との関連などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、欧米における近代社会の成立とアジア諸国の動きについて、多面的・多角的に考察し、表現する。
	(イ) (明治維新と近代国家の形成) ・次の①から③などを題材に、明治維新によって近代国家の基礎が整えられて、人々の生活が大きく変化したことを理解する。 ①開国とその影響 ②富国強兵・殖産興業政策 ③文明開化の風潮	(イ) 工業化の進展と政治や社会の変化、明治政府の諸改革の目的、近代化がもたらした文化への影響、世界の動きと我が国との関連などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、明治維新と近代国家の形成について、多面的・多角的に考察し、表現する。
	(ウ) (議会政治の始まりと国際社会との関わり) ・次の①から④などを題材に、立憲制の国家が成立して議会政治が始まるとともに、我が国の国際的な地位が向上したことを理解する。 ①自由民権運動 ②大日本帝国憲法の制定 ③日清・日露戦争 ④条約改正	(ウ) 議会政治や外交の展開、世界の動きと我が国との関連などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、議会政治の始まりと国際社会との関わりについて、多面的・多角的に考察し、表現する。
	(エ) (近代産業の発展と近代文化の形成) ・次の①から③などを題材に、我が国で近代産業が発展し、近代文化が形成されたことを理解する。 ①我が国の産業革命 ②近代化と国民生活の変化 ③学問・教育・科学・芸術の発展	(エ) 工業化の進展と政治や社会の変化、近代化がもたらした文化への影響、世界の動きと我が国との関連などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、近代産業の発展と近代文化の形成について、多面的・多角的に考察し、表現する。

※各学習内容（白色背景の部分）については、現行学習指導要領をもとに暫定的な内容を記載したものであり、今後、個別の学習内容については別途検討するものとする。
 （その検討状況を踏まえて、必要に応じて高次の資質・能力を見直すこともあり得る。）

高次の資質・能力イメージ（案） <中学校 歴史的分野⑥>

C 近現代の日本と世界

(2) 近代 (後半)の 日本と世界	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	○国際社会の動向や近隣の諸地域との関係を背景に、国際情勢の推移とその対応が政治や社会の変化を促したことや、戦争による惨禍が繰り返された経緯から国際協調の意義について理解する。	○時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響、現在とのつながりなどの視点に着目して、近代後半の日本について多面的・多角的に考察し、それ以前との比較などから時代の特色を大観して現代の諸課題の解決に向けた手掛かりについて構想し、表現することができる。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	<p>(ア) (第一次世界大戦前後の国際情勢と大衆の出現)</p> <p>・次の①から③などを題材に、第一次世界大戦前後の国際情勢及び我が国の動きと、大戦後に国際平和への努力がなされたことを理解する。</p> <p>①第一次世界大戦の背景とその影響 ②民族運動の高まりと国際協調の動き ③我が国の国民の政治的自覚の高まりと文化の大衆化</p> <p>(イ) (第二次世界大戦と人類への惨禍)</p> <p>・次の①から⑤などを題材に、軍部の台頭から戦争までの経過と、大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを理解する。</p> <p>①経済の世界的な混乱と社会問題の発生 ②昭和初期から第二次世界大戦終結までの我が国の政治・外交の動き ③中国などアジア諸国との関係 ④欧米諸国の動き ⑤戦時下の国民の生活</p>	<p>(ア) 世界の動きと我が国との関連などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、第一次世界大戦前後の国際情勢と大衆の出現について、多面的・多角的に考察し、表現する。</p> <p>(イ) 経済の変化の政治への影響、戦争に向かう時期の社会や生活の変化、世界の動きと我が国との関連などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、第二次世界大戦と人類への惨禍について、多面的・多角的に考察し、表現する。</p>

※各学習内容（白色背景の部分）については、現行学習指導要領をもとに暫定的な内容を記載したものであり、今後、個別の学習内容については別途検討するものとする。
（その検討状況を踏まえて、必要に応じて高次の資質・能力を見直すこともあり得る。）

高次の資質・能力イメージ（案） ＜中学校 歴史的分野⑦＞

C 近現代の日本と世界		
(3) 現代の日本と世界	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	○世界の動向を背景に、冷戦下の日本の政治や経済の動きと社会の形成、冷戦後の国際社会との関係について理解するとともに、それらと現在の社会とのつながりについて理解する。	○時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響、現在とのつながり、歴史と私たちとのつながりなどの視点に着目して、第二次世界大戦後の日本について多面的・多角的に考察し、それ以前との比較などから時代の特色を大観して現在と未来の日本や世界の在り方について構想し、表現することができる。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	(ア)（日本の民主化と冷戦下の国際社会） ・次の①から③などを題材に、第二次世界大戦後の諸改革の特色や世界の動きの中で新しい日本の建設が進められたことを理解する。 ①冷戦 ②我が国の民主化と再建の過程 ③国際社会への復帰	(ア) 諸改革の展開と国際社会の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、日本の民主化と冷戦下の国際社会について、多面的・多角的に考察し、表現する。
	(イ)（日本の経済の発展とグローバル化する世界） ・次の①及び②などを題材に、我が国の経済や科学技術の発展によって国民の生活が向上し、国際社会において我が国の役割が大きくなってきたことを理解する。 ①高度経済成長と国際社会との関わり ②冷戦の終結とグローバル化する世界とその中の日本	(イ) 政治の展開と国民生活の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、日本の経済の発展とグローバル化する世界について、多面的・多角的に考察し、表現する。

※各学習内容（白色背景の部分）については、現行学習指導要領をもとに暫定的な内容を記載したものであり、今後、個別の学習内容については別途検討するものとする。
 （その検討状況を踏まえて、必要に応じて高次の資質・能力を見直すこともあり得る。）

(6) 高等学校地理歴史科 歴史総合

高次の資質・能力イメージ（案） <歴史総合①>

A 歴史の扉		
	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	○現在に生きる私たちに関わる諸事象と日本や世界の歴史とのつながりを理解するとともに、過去の事象について探る手がかりとなる材料である資料を考察するには、批判的な読み取りと吟味が重要であることを理解する。	○諸資料を効果的に活用して、時系列、展開や変化、類似や差異、背景や原因、結果や影響、相互の関連や現在とのつながりなどの視点に着目し、身近な生活や地域にみられる諸事象と歴史とのつながりや資料と歴史の叙述の関わりを考察し、表現することができる。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
(1)歴史と私たち	(ア) (次の①及び②などを題材に、) 私たちの生活や身近な地域などに見られる諸事象と日本や日本周辺の地域及び世界の歴史とのつながりを理解する。 <今後、学習対象の具体例を挙げることが必要か>	(ア) 諸資料を活用し、近代化、国際秩序の変化や大衆化、グローバル化などの歴史の変化と関わらせて、私たちの生活や身近な地域などに見られる諸事象と日本や日本周辺の地域及び世界の歴史との関連性について考察し、表現する。
(2)歴史の特質と資料	(ア) (次の①及び②などを題材に、) 資料に基づいて歴史が叙述されていることを理解する。 <今後、学習対象の具体例を挙げることが必要か>	(ア) 日本や世界の様々な地域の人々の歴史的な営みの痕跡や記録である遺物、文書、図像などの資料を活用し、複数の資料の関係や異同に着目して、資料から読み取った情報の意味や意義、特色などを考察し、表現する。

※各学習内容（白色背景の部分）については、現行学習指導要領をもとに暫定的な内容を記載したものであり、今後、個別の学習内容については別途検討するものとする。
（その検討状況を踏まえて、必要に応じて高次の資質・能力を見直すこともあり得る。）

注：現行の学習指導要領においては、内容の柱書に、「（諸資料を活用し、）課題を追究したり解決したりする活動を通して」と目標の柱書の学習過程と共通する表記を入れていたが、現時点版には「課題を追究したり解決したりする活動を通して」の記載は含めていない。（歴史総合、日本史探究、世界史探究）

次のいずれかが考えられる。

- ①目標の柱書にあるため、記載しない
 - ②「内容の取扱い」に記載する
 - ③「思考力、判断力、表現力等」に含めて記載する
- ※②や③の場合、他の領域との調整が必要

高次の資質・能力イメージ（案） <歴史総合②>

B 近代化と私たち		
	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	○資料から収集し読み取った情報を基に、産業社会と国民国家の形成により人々の生活や社会に生じた変化、それらの変化と現代的な諸課題との関係について理解する。	○諸資料を効果的に活用し、時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響、現在とのつながりなどの視点に着目し、現代的な諸課題を歴史的に捉えるための枠組みを活用して近代化の歴史に存在し現代においても調整が求められる課題について多面的・多角的に考察し、表現することができる。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
(1)近代化への問い	(ア) 次の①から⑥などに関する資料を選択して活用し、資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を身に付ける。 ①交通と貿易 ②産業と人口 ③権利意識と政治参加や国民の義務 ④学校教育 ⑤労働と家族 ⑥移民	(ア) ①から⑥などに関する資料を活用し、近代化に伴う生活や社会の変容について考察し、問いを表現する。
(2)結び付く世界と日本の開国	(ア) 次の①及び②などを題材に、18世紀のアジアの経済と社会を理解する。 ①18世紀のアジアや日本における生産と流通 ②アジア各地域間やアジア諸国と欧米諸国の貿易 (イ) 次の①及び②などを題材に、工業化と世界市場の形成を理解する。 ①産業革命と交通・通信手段の革新 ②中国の開港と日本の開国	(ア) 諸資料を活用して、18世紀のアジア諸国の経済が欧米諸国に与えた影響などに着目して、(1)で表現した問いを踏まえ、18世紀のアジアの経済と社会に関する主題について、アジア諸国における経済活動の特徴、アジア各地域間の関係、アジア諸国と欧米諸国との関係などを多面的・多角的に考察し、表現する。 (イ) 諸資料を活用して、産業革命の影響、中国の開港と日本の開国の背景とその影響などに着目して、(1)で表現した問いを踏まえ、工業化と世界市場の形成に関する主題について、アジア諸国と欧米諸国との関係の変容などを多面的・多角的に考察し、表現する。
(3)国民国家と明治維新	(ア) 次の①及び②などを題材に、立憲体制と国民国家の形成を理解する。 ①18世紀後半以降の欧米の市民革命や国民統合の動向 ②日本の明治維新や大日本帝国憲法の制定 (イ) 次の①及び②などを題材に、列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容を理解する。 ①列強の進出と植民地の形成 ②日清・日露戦争	(ア) 諸資料を活用して、国民国家の形成の背景や影響などに着目して、(1)で表現した問いを踏まえ、立憲体制と国民国家の形成に関する主題について、政治変革の特徴、国民国家の特徴や社会の変容などを多面的・多角的に考察し、表現する。 (イ) 諸資料を活用して、帝国主義政策の背景、帝国主義政策がアジア・アフリカに与えた影響などに着目して、(1)で表現した問いを踏まえ、列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容に関する主題について、帝国主義政策の特徴、列強間の関係の変容などを多面的・多角的に考察し、表現する。
(4)近代化と現代的な諸課題	(ア) 内容のA及びBの(1)から(3)までの学習などを基に、現代的な諸課題の形成に関わる近代化の歴史を理解する。	(ア) 諸資料を活用して、事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、自由・制限、平等・格差、開発・保全、統合・分化、対立・協調などの観点（現代的な諸課題を歴史的に捉えるための枠組み）から設定された主題について、多面的・多角的に考察し、表現する。

※各学習内容（白色背景の部分）については、現行学習指導要領をもとに暫定的な内容を記載したものであり、今後、個別の学習内容については別途検討するものとする。
（その検討状況を踏まえて、必要に応じて高次の資質・能力を見直すこともあり得る。）



高次の資質・能力イメージ（案） <歴史総合③>

C 国際秩序の変化や大衆化と私たち

	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	○資料から収集し読み取った情報を基に、国際的な結び付きの強まりによる国家間の関係性の変化や、個人や集団の社会参加の拡大による生活や社会に生じた変化、それらの変化と現代的な諸課題との関係について理解する。	○諸資料を効果的に活用して、時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響、現在とのつながりなどの視点に着目し、現代的な諸課題を歴史的に捉えるための枠組みを活用して国際秩序の変化や大衆化の歴史に存在し現代においても調整が求められる課題を多面的・多角的に考察し、表現することができる。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
(1) 国際秩序の変化や大衆化への問い	(ア) 次の①から⑤などに関する資料を選択して活用し、資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を身に付ける。 ①国際関係の緊密化 ②アメリカ合衆国とソヴィエト連邦の台頭 ③植民地の独立 ④大衆の政治的・経済的・社会的地位の変化 ⑤生活様式の変化	(ア) ①から⑤などに関する資料を活用し、国際秩序の変化や大衆化に伴う生活や社会の変容について考察し、問いを表現する。
(2) 第一次世界大戦と大衆社会	(ア) 次の①から④などを題材に、総力戦と第一次世界大戦後の国際協調体制を理解する。 ①第一次世界大戦の展開 ②日本やアジアの経済成長 ③ソヴィエト連邦の成立とアメリカ合衆国の台頭 ④ナショナリズムの動向と国際連盟の成立 (イ) 次の①から④などを題材に、大衆社会の形成と社会運動の広がりを理解する。 ①大衆の政治参加と女性の地位向上 ②大正デモクラシーと政党政治 ③大量消費社会と大衆文化 ④教育の普及とマスメディアの発達	(ア) 諸資料を活用して、第一次世界大戦の推移と第一次世界大戦が大戦後の世界に与えた影響、日本の参戦の背景と影響などに着目して、(1)で表現した問いを踏まえ、総力戦と第一次世界大戦後の国際協調体制に関する主題について、第一次世界大戦の性格と惨禍、日本とアジア及び太平洋地域の関係や国際協調体制の特徴などを多面的・多角的に考察し、表現する。 (イ) 諸資料を活用して、第一次世界大戦前後の社会の変化などに着目して、(1)で表現した問いを踏まえ、大衆社会の形成と社会運動の広がりに関する主題について、第一次世界大戦後の社会の変容と社会運動との関連などを多面的・多角的に考察し、表現する。
(3) 経済危機と第二次世界大戦	(ア) 次の①から③などを題材に、国際協調との動揺を理解する。 ①世界恐慌 ②ファシズムの伸張 ③日本の対外政策 (イ) 次の①から④などを題材に、第二次世界大戦後の国際秩序と日本国際社会への復帰を理解する。 ①第二次世界大戦の展開 ②国際連合と国際経済体制 ③冷戦の始まりとアジア諸国の動向 ④戦後改革と日本国憲法の制定 ⑤平和条約と日本の独立の回復	(ア) 諸資料を活用して、経済危機の背景と影響、国際秩序や政治体制の変化などに着目して、(1)で表現した問いを踏まえ、国際協調体制の動揺に関する主題について、各国の世界恐慌への対応の特徴、国際協調体制の動揺の要因などを多面的・多角的に考察し、表現する。 (イ) 諸資料を活用して、第二次世界大戦の推移と第二次世界大戦が大戦後の世界に与えた影響、第二次世界大戦後の国際秩序の形成が社会に及ぼした影響などに着目して、(1)で表現した問いを踏まえ、第二次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰に関する主題について、第二次世界大戦の性格と惨禍、第二次世界大戦下の社会状況や人々の生活、日本に対する占領政策と国際情勢との関係などを多面的・多角的に考察し、表現する。
(4) 国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題	(ア) 内容のA及びCの(1)から(3)までの学習などを基に、現代的な諸課題の形成に関わる近代化の歴史を理解する。	(ア) 諸資料を活用して、事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、自由・制限、平等・格差、開発・保全、統合・分化、対立・協調などの観点（現代的な諸課題を歴史的に捉えるための枠組み）から設定された主題について、多面的・多角的に考察し、表現する。

※各学習内容（白色背景の部分）については、現行学習指導要領をもとに暫定的な内容を記載したものであり、今後、個別の学習内容については別途検討するものとする。
（その検討状況を踏まえて、必要に応じて高次の資質・能力を見直すこともあり得る。）

高次の資質・能力イメージ（案） <歴史総合④>

D グローバル化と私たち		
	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	○資料から収集し読み取った情報を基に、科学技術の革新を背景に人・商品・資本・情報等が国境を越えて一層流動するようになったことによる生活や社会に生じた変化について理解するとともに、現代的な諸課題の形成と近現代の歴史とのつながりについて理解する。	○諸資料を効果的に活用して、時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響、現在とのつながりなどの視点に着目し、現代的な諸課題を歴史的に捉えるための枠組みを活用して近現代の歴史に存在し現代においても調整が求められる課題を多面的・多角的に考察したことを基に、よりよい社会の実現に向けた展望を構想し、表現することができる。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
(1)グローバル化への問い	(ア) 次の①から⑦などに関する資料などを選択して活用し、資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を身に付ける。 ①冷戦と国際関係 ②人と資本の移動 ③高度情報通信 ④食料と人口 ⑤資源・エネルギーと地球環境 ⑥感染症 ⑦多様な人々の共存	(ア) ①から⑦などに関する資料を活用し、グローバル化に伴う生活や社会の変容について考察し、問いを表現する。
(2)冷戦と世界経済	(ア) 次の①から④などを題材に、国際政治の変容を理解する。 ①脱植民地化とアジア・アフリカ諸国 ②冷戦下の地域紛争 ③先進国の政治の動向 ④軍備拡張や核兵器の管理 (イ) 次の①から③などを題材に、世界経済の拡大と経済成長下の日本の社会を理解する。 ①西ヨーロッパや東南アジアの地域連携 ②計画経済とその波及 ③日本の高度経済成長	(ア) 諸資料を活用して、地域紛争の背景や影響、冷戦が各国の政治に及ぼした影響などに着目して、(1)で表現した問いを踏まえ、国際政治の変容に関する主題について、地域紛争と冷戦の関係、第三世界の国々の経済政策の特徴、欧米やソヴィエト連邦の政策転換の要因などを多面的・多角的に考察し、表現する。 (イ) 諸資料を活用して、冷戦が各国経済に及ぼした影響、地域連携の背景と影響、日本の高度経済成長の背景と影響などに着目して、(1)で表現した問いを踏まえ、世界経済の拡大と経済成長下の日本の社会に関する主題について、冷戦下の世界経済や地域連携の特徴、経済成長による生活や社会の変容などを多面的・多角的に考察し、表現する。
(3)世界秩序の変容と日本	(ア) 次の①から④などを題材に、市場経済の変容と課題を理解する。 ①石油危機 ②アジアの諸地域の経済発展 ③市場開放と経済の自由化 ④情報通信技術の発展 (イ) 次の①から④などを題材に、冷戦終結後の国際政治の変容と課題を理解する。 ①冷戦の終結 ②民主化の進展 ③地域統合の拡大と変容 ④地域紛争の拡散とそれへの対応	(ア) 諸資料を活用して、アジアの諸地域の経済発展の背景、経済の自由化や技術革新の影響、資源・エネルギーと地球環境問題が世界経済に及ぼした影響などに着目して、(1)で表現した問いを踏まえ、市場経済の変容と課題に関する主題について、市場経済のグローバル化の特徴と日本の役割などを多面的・多角的に考察し、表現する。 (イ) 諸資料を活用して、冷戦の変容と終結の背景、民主化や地域統合の背景と影響、地域紛争の拡散の背景と影響などに着目して、(1)で表現した問いを踏まえ、冷戦終結後の国際政治の変容と課題に関する主題について、冷戦終結後の国際政治の特徴と日本の役割などを多面的・多角的に考察し、表現する。
(4)現代的な諸課題の形成と展望	(ア) これまでのこの科目の学習などを基に、歴史的経緯を踏まえた現代的な諸課題を理解する。	(ア) 事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、持続可能な社会の実現を視野に入れ、主題を設定し、諸資料を活用し探究する活動を通して、日本とその他の国や地域の動向を比較し相互に関連付けたり、現代的な諸課題を展望して、主題について多面的・多角的に考察、構想し、表現する。

※各学習内容（白色背景の部分）については、現行学習指導要領をもとに暫定的な内容を記載したものであり、今後、個別の学習内容については別途検討するものとする。
（その検討状況を踏まえて、必要に応じて高次の資質・能力を見直すこともあり得る。）

(7) 高等学校地理歴史科 日本史探究

高次の資質・能力イメージ（案） <日本史探究①>

A 原始・古代の日本と東アジア

	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	○資料から収集し読み取った情報を基に、根拠に基づき見いだした歴史の転換や画期を踏まえ、環境への適応と文化の形成、列島近隣地域との交流との関係など、各自が形成した観点から古代の政治や社会と文化の特色を理解する。	○多様な資料を効果的に活用して、時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響などの視点に着目し、古代の政治や社会と文化の特色についての仮説を踏まえた主題を設定して多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現することができる。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
(1) 黎明期の日本列島と歴史的環境	(ア) 次の①及び②などを題材に、黎明期の日本列島の歴史的環境と文化の形成、原始社会の特色を理解する。 ①旧石器文化から縄文文化への変化 ②弥生文化の成立	(ア) 諸資料を活用し、自然環境と人間の生活との関わり、中国大陸・朝鮮半島などアジア及び太平洋地域との関係、狩猟採集社会から農耕社会への変化などに着目して、環境への適応と文化の形成について、多面的・多角的に考察し、表現する。 (イ) 黎明期の日本列島の変化に着目して、原始社会の特色について多面的・多角的に考察し、時代を通観する問いを表現する。
(2) 歴史資料と原始・古代の展望	(ア) 原始・古代の特色を示す適切な歴史資料を基に、歴史資料の特性を踏まえて歴史に関わる情報を収集し、読み取りまとめる技能を身に付ける。	(ア) (1)で表現した時代を通観する問いを踏まえ、資料を通して読み取れる情報から原始・古代の特色について多面的・多角的に考察し、仮説を表現する。
(3) 古代の国家・社会の展開と画期（歴史の解釈、説明、論述）	(ア) 次の①及び②などを題材に、原始から古代の政治・社会や文化の特色を理解する。 ①国家の形成と古墳文化 ②律令体制の成立過程と諸文化の形成 (イ) 次の①から③などを題材に、律令体制の再編と変容、古代の社会と文化の変容を理解する。 ①貴族政治の展開 ②平安期の文化 ③地方支配の変化や武士の出現	(ア) 諸資料を活用し、中国大陸・朝鮮半島との関係、隋・唐など中国王朝との関係と政治や文化への影響などに着目して、(2)で表現した仮説を踏まえて主題を設定し、小国の形成と連合、古代の国家の形成の過程について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現する。 (イ) 諸資料を活用し、地方の諸勢力の成長と影響、東アジアとの関係の変化、社会の変化と文化との関係などに着目して、(2)で表現した仮説を踏まえ主題を設定し、古代の国家・社会の変容について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現する。

※各学習内容（白色背景の部分）については、現行学習指導要領をもとに暫定的な内容を記載したものであり、今後、個別の学習内容については別途検討するものとする。
（その検討状況を踏まえて、必要に応じて高次の資質・能力を見直すこともあり得る。）

B 中世の日本と世界

	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	○資料から収集し読み取った情報を基に、根拠に基づき見いだした歴史の転換や画期を踏まえ、複層的な政治的権力や権威、多様な社会集団の成長とその文化との関わりなど、各自が形成した観点から中世の政治や社会と文化の特色を理解する。	○多様な資料を効果的に活用して、時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響などの視点に着目し、中世の政治や社会と文化の特色についての仮説を踏まえた主題を設定して多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現することができる。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
(1)中世への転換と歴史的環境	(ア) 次の①及び②などを題材に、古代から中世への時代の転換を理解する。 ①貴族政治の変容と武士の政治進出 ②土地支配の変容	(ア) 諸資料を活用し、権力の主体の変化、東アジアとの関わりなどに着目して、古代から中世の国家・社会の変容を多面的・多角的に考察し、表現する。 (イ) 時代の転換に着目して、中世の特色について多面的・多角的に考察し、時代を通観する問いを表現する。
(2)歴史資料と中世の展望	(ア) 中世の特色を示す適切な歴史資料を基に、資料から歴史に関わる情報を収集し、読み取る技能を身に付ける。	(ア) (1)で表現した時代を通観する問いを踏まえ、資料を通して読み取れる情報から中世の特色について多面的・多角的に考察し、仮説を表現する
(3)中世の国家・社会の展開と画期（歴史の解釈、説明、論述）	(ア) 武家政権の伸張、社会や文化の特色を理解する。 ①武家政権の成立と展開 ②産業の発達 ③宗教や文化の展開 (イ) 地域権力の成長、社会の変容と文化の特色を理解する。 ①武家政権の変容 ②日明貿易の展開と琉球王国の成立 ③村落や都市の自立 ④多様な文化の形成や融合	(ア) 諸資料を活用し、公武関係の変化、宋・元（モンゴル帝国）などユーラシアとの交流と経済や文化への影響などに着目して、(2)で表現した仮説を踏まえ主題を設定し、中世の国家・社会の展開について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現する。 (イ) 諸資料を活用し、社会や経済の変化とその影響、東アジアの国際情勢の変化とその影響、地域の多様性、社会の変化と文化との関係などに着目して、(2)で表現した仮説を踏まえ主題を設定し、中世の国家・社会の変容について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現する。

※各学習内容（白色背景の部分）については、現行学習指導要領をもとに暫定的な内容を記載したものであり、今後、個別の学習内容については別途検討するものとする。
（その検討状況を踏まえて、必要に応じて高次の資質・能力を見直すこともあり得る。）

高次の資質・能力イメージ（案） <日本史探究③>

C 近世の日本と世界

	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	○資料から収集し読み取った情報を基に、根拠に基づき見いだした歴史の転換や画期を踏まえ、統一的な政治権力や広域の情報・流通のネットワークの形成や継続による社会変化に伴う文化の変容など、各自が形成した観点から近世の政治や社会と文化の特色を理解する。	○多様な資料を効果的に活用して、時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響などの視点に着目し、近世の政治や社会と文化の特色についての仮説を踏まえた主題を設定して多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現することができる。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
(1)近世への転換と歴史的環境	(ア) 次の①及び②などを題材に、中世から近世への時代の転換を理解する。 ①織豊政権の政治・経済政策 ②貿易や対外関係	(ア) 諸資料を活用し、村落や都市の支配の変化、アジア各地やヨーロッパ諸国との交流の影響などに着目して、中世から近世の国家・社会の変容を多面的・多角的に考察し、表現する。 (イ) 時代の転換に着目して、近世の特色について多面的・多角的に考察し、時代を通観する問いを表現する。
(2)歴史資料と近世の展望	(ア) 近世の特色を示す適切な歴史資料を基に、資料から歴史に関わる情報を収集し、読み取る技能を身に付ける。	(ア) (1)で表現した時代を通観する問いを踏まえ、資料を通して読み取れる情報から近世の特色について多面的・多角的に考察し、仮説を表現する
(3)近世の国家・社会の展開と画期 (歴史の解釈、説明、論述)	(ア) 次の①から④などを題材に、幕藩体制の確立、近世の社会と文化の特色を理解する。 ①法や制度による支配秩序の形成と身分制 ②貿易の統制と対外関係 ③技術の向上と開発の進展 ④学問・文化の発展 (イ) 次の①から⑤などを題材に、幕藩体制の変容、近世の庶民の生活と文化の特色、近代化の基盤の形成を理解する。 ①産業の発達 ②飢饉や一揆の発生 ③幕府政治の動揺と諸藩の動向 ④学問・思想の展開 ⑤庶民の生活と文化	(ア) 諸資料を活用し、織豊政権との類似と相違、アジアの国際情勢の変化、交通・流通の発達、都市の発達と文化の担い手との関係などに着目して、(2)で表現した仮説を踏まえ主題を設定し、近世の国家・社会の展開について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現する。 (イ) 諸資料を活用し、社会・経済の仕組みの変化、幕府や諸藩の政策の変化、国際情勢の変化と影響、政治・経済と文化との関係などに着目して、(2)で表現した仮説を踏まえ主題を設定し、近世の国家・社会の変容について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現する。

※各学習内容（白色背景の部分）については、現行学習指導要領をもとに暫定的な内容を記載したものであり、今後、個別の学習内容については別途検討するものとする。
（その検討状況を踏まえて、必要に応じて高次の資質・能力を見直すこともあり得る。）

D 近現代の地域・日本と世界

	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	<p>○資料から収集し読み取った情報を基に、近代化、国際秩序の変化や大衆化、グローバル化などの近現代の歴史の変化を踏まえ、地域社会及び日本と世界の関係、現在の社会の構造などのつながりなど、各自が形成した観点から近現代の政治や社会と文化の特色を理解する。</p> <p>○現代の日本の課題を歴史的な経緯から理解する。</p>	<p>○多様な資料を効果的に活用して、時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響、現在とのつながりなどの視点に着目し、近現代の政治や社会と文化の特色についての仮説を踏まえた主題を設定して多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現することができる。</p> <p>○事象の意味や意義、関係性などを構造的に整理して、我が国の近現代を通じた歴史の画期を見だし、根拠を示して表現することができる。</p> <p>○現代の日本の課題の形成に関わる歴史について考察、構想し表現することができる。</p>
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
(1)近代への転換と歴史的環境	<p>(ア) 次の①及び②などを題材に、近世から近代への時代の転換を理解する。</p> <p>① 対外政策の変容と開国</p> <p>② 幕藩体制の崩壊と新政権の成立</p>	<p>(ア) 諸資料を活用し、欧米諸国の進出によるアジア諸国の変化、政治・経済の変化と思想への影響などに着目して、近世から近代の国家・社会の変容を多面的・多角的に考察し、表現する。</p> <p>(イ) 時代の転換に着目して、近代の特色について多面的・多角的に考察し、時代を通観する問いを表現する。</p>
(2)歴史資料と近代の展望	<p>(ア) 近代の特色を示す適切な歴史資料を基に、資料から歴史に関わる情報を収集し、読み取る技能を身に付ける。</p>	<p>(ア) (1)で表現した時代を通観する問いを踏まえ、資料を通して読み取れる情報から近代の特色について多面的・多角的に考察し、仮説を表現する</p>
(3)近現代の地域・日本と世界の画期と構造	<p>(ア) 立憲体制への移行、国民国家の形成、アジアや欧米諸国との関係の変容を理解する。</p> <p>① 明治維新</p> <p>② 自由民権運動</p> <p>③ 大日本帝国憲法の制定</p> <p>④ 条約改正</p> <p>⑤ 日清・日露戦争</p> <p>⑥ 第一次世界大戦</p> <p>⑦ 社会運動の動向</p> <p>⑧ 政党政治</p>	<p>(ア) 諸資料を活用し、アジアや欧米諸国との関係、地域社会の変化、戦争が及ぼした影響などに着目して、(2)で表現した仮説を踏まえ主題を設定し、近代の政治の展開と国際的地位の確立、第一次世界大戦前後の対外政策や国内経済、国民の政治参加の拡大について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現する。</p> <p><(ア)と(イ)は今後、統合整理が必要></p>

※各学習内容（白色背景の部分）については、現行学習指導要領をもとに暫定的な内容を記載したものであり、今後、個別の学習内容については別途検討するものとする。
（その検討状況を踏まえて、必要に応じて高次の資質・能力を見直すこともあり得る。）

高次の資質・能力イメージ（案） <日本史探究⑤>

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
前ページ よりの続き D (3)近 現代の地 域・日本 と世界の 画期と構 造	<p>(イ) 次の①から⑤などを題材に、産業の発展の経緯と近代の文化の特色、大衆社会の形成を理解する。</p> <p>①文明開化の風潮 ②産業革命の展開 ③交通の整備と産業構造の変容 ④学問の発展や教育制度の拡充 ⑤社会問題の発生</p> <p>(ウ) 次の①から③などを題材に、第二次世界大戦に至る過程及び大戦中の政治・社会、国民生活の変容を理解する。</p> <p>①恐慌と国際関係 ②軍部の台頭と対外政策 ③戦時体制の強化と第二次世界大戦の展開</p> <p>(I) 次の①から⑥などを題材に、第二次世界大戦後の政治・経済や対外関係、現代の政治や社会の枠組み、国民生活の変容を理解する。</p> <p>①占領政策と諸改革 ②日本国憲法の成立 ③平和条約と独立の回復 ④戦後の経済復興とアジア諸国との関係 ⑤高度経済成長と社会・経済・情報の国際化 ⑥グローバル化する世界と現代の日本</p>	<p>(イ) 諸資料を活用し、欧米の思想・文化の影響、産業の発展の背景と影響、地域社会における労働や生活の変化、教育の普及とその影響などに着目して、(2)で表現した仮説を踏まえて主題を設定し、日本の工業化の進展、近代の文化の形成について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現する。</p> <p><(ア)と(イ)は今後、統合整理が必要></p> <p>(ウ) 諸資料を活用し、国際社会やアジア近隣諸国との関係、政治・経済体制の変化、戦争の推移と国民生活への影響などに着目して、(2)で表現した仮説を踏まえて主題を設定し、第二次世界大戦と日本の動向の関わりについて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現する。</p> <p>(I) 諸資料を活用し、第二次世界大戦前後の政治や社会の類似と相違、冷戦の影響、グローバル化の進展の影響、国民の生活や地域社会の変化などに着目して、(2)で表現した仮説を発展させて主題を設定し、戦前と戦後の国家・社会の変容、戦後政治の展開、日本経済の発展、第二次世界大戦後の国際社会における我が国の役割について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現する。</p> <p>(オ) 日本と世界の相互の関わり、地域社会の変化、(ア)から(I)までの学習で見いだした画期などに着目して、事象の意味や意義、関係性などを構造的に整理して多面的・多角的に考察し、我が国の近現代を通じた歴史の画期を見だし、根拠を示して表現する。</p>
(4)現代 の日本の 課題の探 究	<p>(ア) 次の①から③までのいずれかを取り上げ、歴史的経緯を踏まえて、持続可能な社会の実現を視野に入れ、現代の日本の課題を理解する。</p> <p>①社会や集団と個人 ②世界の中の日本 ③伝統や文化の継承と創造</p>	<p>内容のA、B及びC並びにDの(1)から(3)までの学習を踏まえ、諸資料を活用し、歴史の画期、地域社会の諸相と日本や世界との歴史的な関係、それ以前の時代からの継続や変化などに着目して、地域社会や身の回りの事象と関連させて主題を設定し、現代の日本の課題の形成に関わる歴史について、多面的・多角的に考察、構想して表現する。</p>

※各学習内容（白色背景の部分）については、現行学習指導要領をもとに暫定的な内容を記載したものであり、今後、個別の学習内容については別途検討するものとする。
（その検討状況を踏まえて、必要に応じて高次の資質・能力を見直すこともあり得る。）

(8) 高等学校地理歴史科 世界史探究

高次の資質・能力イメージ（案） <世界史探究①>

A 世界史へのまなざし

	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	○現在と異なる過去や現在につながる過去について、空間軸と時間軸のスケールを自在に活用して歴史を考察する方法を理解する。	○時系列や空間的な広がり、来歴や変化の視点に着目して、地球環境と人類の歴史との関わりや身の回りの諸事象と歴史との関わりを考察し、表現することができる。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
(1) 地球環境から見る人類の歴史	(ア) 次の①などを題材に、人類の歴史と地球環境との関わりを理解する。 ①人類の誕生と地球規模での拡散・移動 ＜今後、学習対象の具体例を挙げる必要があるか＞	(ア) 諸資料を活用して、諸事象を捉えるための時間の尺度や、諸事象の空間的な広がりに着目し、人類の歴史と地球環境との関わりに関する主題について、地球の歴史における人類の歴史の位置と人類の特性を考察し、表現する。
(2) 日常生活から見る世界の歴史	(ア) 次の①から③などの身の回りの事象を題材に、私たちの日常生活が世界の歴史とつながっていることを理解する。 ①衣食住 ②家族 ③教育、余暇 ＜今後、学習対象の具体度を挙げる必要があるか＞	(ア) 諸資料を活用して、諸事象の来歴や変化に着目して、私たちの日常生活が世界の歴史とつながっていることに関する主題について、身の回りの諸事象と世界の歴史との関連性を考察し、表現する。

※各学習内容（白色背景の部分）については、現行学習指導要領をもとに暫定的な内容を記載したものであり、今後、個別の学習内容については別途検討するものとする。
（その検討状況を踏まえて、必要に応じて高次の資質・能力を見直すこともあり得る。）

注：

現行においては、各内容項目の「諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、」という考察の方法に関する記載は全ての内容項目に共通して記載されている。一方、歴史総合や日本史探究と同様、「思考力、判断力、表現力等」の記載に、「諸資料を活用して」と追記した。追記したことを踏まえると、「諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き」は重複していると捉えられることから、一律削除して短くしている（次ページ以降は削除したものを表記）。内容の取扱いに記載することもある。

高次の資質・能力イメージ（案） <世界史探究②>

B 諸地域の歴史的特質の形成

	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
(1) 諸地域の歴史的特質への問い	<p>○ 資料から情報を収集し読み取ったことを基に、諸地域の歴史的な特質について理解する。</p> <p>(ア) 次の①から⑤などに関する資料を選択して活用し、資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を身に付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 生業 ② 身分・階級 ③ 王権 ④ 宗教 ⑤ 文化・思想 	<p>○ 諸資料を効果的に活用して、時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響などに着目し、政治関係、経済関係、社会関係、知的活動の特色などから古代文明や諸地域の多様性について多面的・多角的に考察し、諸地域の歴史的特質の形成を表現することができる。</p> <p>(ア) ①から⑤などに関する資料を活用して、文明の形成に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連などに着目し、諸地域の歴史的特質を読み解く観点について考察し、問いを表現する。</p>
(2) 古代文明の歴史的特質	<p>(ア) 次の①から③などを題材に、古代文明の歴史的特質を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① オリエント文明 ② インダス文明 ③ 中華文明 	<p>(ア) 諸資料を活用して、古代文明に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連などに着目し、(1)で考察した観点を踏まえた問いを踏まえて、古代文明の歴史的特質に関する主題について、自然環境と生活や文化との関連性、農耕・牧畜の意義などを多面的・多角的に考察し、表現する。</p>
(3) 諸地域の歴史的特質	<p>(ア) 次の①及び②などを題材に、東アジアと中央ユーラシアの歴史的特質を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 秦・漢と遊牧国家 ② 唐と近隣諸国の動向 <p>(イ) 次の①及び②などを題材に、南アジアと東南アジアの歴史的特質を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 仏教の成立とヒンドゥー教 ② 南アジアと東南アジアの諸国家 <p>(ウ) 次の①及び②などを題材に、西アジアと地中海周辺の歴史的特質を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 西アジアと地中海周辺の諸国家 ② キリスト教とイスラームの成立とそれらを基盤とした国家の形成 	<p>(ア) 諸資料を活用して、東アジアと中央ユーラシアの歴史に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互の関わりなどに着目し、(1)で考察した観点を踏まえた問いを踏まえて、東アジアと中央ユーラシアの歴史的特質に関する主題について、唐の統治体制と社会や文化の特色、唐と近隣諸国との関係、遊牧民の社会の特徴と周辺諸地域との関係などを多面的・多角的に考察し、表現する。</p> <p>(イ) 諸資料を活用して、南アジアと東南アジアの歴史に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互の関わりなどに着目し、(1)で考察した観点を踏まえた問いを踏まえて、南アジアと東南アジアの歴史的特質に関する主題について、南アジアと東南アジアにおける宗教や文化の特色、東南アジアと周辺諸地域との関係などを多面的・多角的に考察し、表現する。</p> <p>(ウ) 諸資料を活用して、西アジアと地中海周辺の歴史に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互の関わりなどに着目し、(1)で考察した観点を踏まえた問いを踏まえて、西アジアと地中海周辺の歴史的特質に関わる主題について、西アジアと地中海周辺の諸国家の社会や文化の特色、キリスト教とイスラームを基盤とした国家の特徴などを多面的・多角的に考察し、表現する。</p>

※ 各学習内容（白色背景の部分）については、現行学習指導要領をもとに暫定的な内容を記載したものであり、今後、個別の学習内容については別途検討するものとする。
（その検討状況を踏まえて、必要に応じて高次の資質・能力を見直すこともあり得る。）

高次の資質・能力イメージ（案） <世界史探究③>

C 諸地域の交流・再編

	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	○資料から情報を収集し読み取ったことを基に、諸地域の複合的・重層的なつながりについて構造的に理解する。	○諸資料を効果的に活用して、時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響などに着目し、政治関係、経済関係、社会関係、知的活動の特色並びにそれ以前との比較などから交流の広がりや深まりについて多面的・多角的に考察し、諸地域の交流・再編を表現することができる。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
(1) 諸地域の交流・再編への問い	(ア) 次の①から④などに関する資料を選択して活用し、資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を身に付ける。 ① 交易の拡大 ② 都市の発達 ③ 国家体制の変化 ④ 宗教や科学・技術及び文化・思想の伝播	(ア) ①から④などに関する資料を活用して、諸地域の交流・再編に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、諸地域の交流・再編を読み解く観点について考察し、問いを表現する。
(2) 結び付くユーラシアと諸地域	(ア) 次の①から③などを題材に、海域と内陸にわたる諸地域の交流の広がり理解する。 ① 西アジア社会の動向とアフリカ・アジアへのイスラームの伝播 ② ヨーロッパ封建社会とその展開 ③ 宋の社会とモンゴル帝国の拡大 (イ) 次の①から③などを題材に、諸地域の交易の進展とヨーロッパの進出を理解する。 ① アジア海域での交易の興隆 ② 明と日本・朝鮮の動向 ③ スペインとポルトガルの活動	(ア) 諸資料を活用して、諸地域の交流の広がりに関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、(1)で考察した観点を踏まえた問いを踏まえて、海域と内陸にわたる諸地域の交流の広がりに関する主題について、諸地域へのイスラームの拡大の要因、ヨーロッパの社会や文化の特色、中国社会の特徴やモンゴル帝国が果たした役割などを多面的・多角的に考察し、表現する。 (イ) 諸資料を活用して、諸地域の交易とヨーロッパの進出に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、(1)で考察した観点を踏まえた問いを踏まえて、海域と内陸にわたる諸地域の交流の広がりに関する主題について、アジア海域での交易の特徴、ユーラシアとアメリカ大陸間の交易の特徴とアメリカ大陸の変容などを多面的・多角的に考察し、表現する。
(3) アジア諸地域とヨーロッパの再編	(ア) 次の①及び②などを題材に、アジア諸地域の特徴を理解する。 ① 西アジアや南アジアの諸帝国 ② 清と日本・朝鮮などの動向 (イ) 次の①から③などを題材に、主権国家体制の形成と地球規模での交易の拡大を理解する。 ① 宗教改革とヨーロッパ諸国の抗争 ② 大西洋三角貿易の展開 ③ 科学革命と啓蒙思想	(ア) 諸資料を活用して、アジア諸地域の動向に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、(1)で考察した観点を踏まえた問いを踏まえて、アジア諸地域の特徴に関する主題について、諸帝国の統治の特徴、アジア諸地域の経済と社会や文化の特色、日本の対外関係の特徴などを多面的・多角的に考察し、表現する。 (イ) 諸資料を活用して、ヨーロッパ諸地域の動向に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、(1)で考察した観点を踏まえた問いを踏まえて、主権国家体制の形成と地球規模での交易の拡大に関する主題について、宗教改革の意義、大西洋両岸諸地域の経済的連関の特徴、主権国家の特徴と経済活動との関連、ヨーロッパの社会や文化の特色などを多面的・多角的に考察し、表現する。

※各学習内容（白色背景の部分）については、現行学習指導要領をもとに暫定的な内容を記載したものであり、今後、個別の学習内容については別途検討するものとする。
（その検討状況を踏まえて、必要に応じて高次の資質・能力を見直すこともあり得る。）

高次の資質・能力イメージ（案） <世界史探究④>

D 諸地域の結合・変容

	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	<p>○資料から情報を収集し読み取ったことを基に、地球規模での一体化と相互依存の強まりについて構造的に理解する。</p>	<p>○諸資料を効果的に活用して、時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響などに着目し、政治関係、経済関係、社会関係、知的活動の特色並びにそれ以前との比較などから地球規模での一体化と相互依存の強まりについて多面的・多角的に考察し、諸地域の結合・変容を表現することができる。</p>
(1) 諸地域の結合・変容への問い	<p>(ア) 次の①から⑥などに関する資料を選択して活用し、資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を身に付ける。</p> <p>①人々の国際的な移動 ②自由貿易の広がり ③マスメディアの発達 ④国際規範の変容 ⑤科学・技術の発達 ⑥文化・思想の展開</p>	<p>(ア) ①から⑥などに関する資料を活用して、諸地域の結合・変容に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、諸地域の交流・再編を読み解く観点について考察し、問いを表現する。</p>
(2) 世界市場の形成と諸地域の結合	<p>(ア) 次の①から③などを題材に、国民国家と近代民主主義社会の形成を理解する。</p> <p>①産業革命と環大西洋革命 ②自由主義とナショナリズム ③南北戦争の展開</p> <p>(イ) 次の①から③などを題材に、世界市場の形成とアジア諸国の変容を理解する。</p> <p>①国際的な分業体制と労働力の移動 ②イギリスを中心とした自由貿易体制 ③アジア諸国の植民地化と諸改革</p>	<p>(ア) 諸資料を活用して、大西洋両岸諸地域の動向に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、(1)で考察した観点を踏まえた問いを踏まえて、国民国家と近代民主主義社会の形成に関する主題について、産業革命や環大西洋革命の意味や意義、自由主義とナショナリズムの特徴、南北アメリカ大陸の変容などを多面的・多角的に考察し、表現する。</p> <p>(イ) 諸資料を活用して、世界市場の形成とアジア諸国の動向に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、(1)で考察した観点を踏まえた問いを踏まえて、世界市場の形成とアジア諸国の変容に関する主題について、労働力の移動を促す要因、イギリスの覇権の特徴、アジア諸国の変容の地域的な特徴などを多面的・多角的に考察し、表現する。</p>
(3) 帝国主義とナショナリズムの高揚	<p>(ア) 次の①及び②などを題材に、世界分割の進展とナショナリズムの高まりを理解する。</p> <p>①第二次産業革命と帝国主義諸国の抗争 ②アジア諸国の変革</p> <p>(イ) 次の①から④などを題材に、第一次世界大戦の展開と諸地域の変容を理解する。</p> <p>①第一次世界大戦とロシア革命 ②ヴェルサイユ・ワシントン体制の形成 ③アメリカ合衆国の台頭 ④アジア・アフリカの動向とナショナリズム</p>	<p>(ア) 諸資料を活用して、列強の対外進出とアジア・アフリカの動向に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、(1)で考察した観点を踏まえた問いを踏まえて、世界分割の進展とナショナリズムの高まりに関する主題について、世界経済の構造的な変化、列強の帝国主義政策の共通点と相違点、アジア諸国のナショナリズムの特徴などを多面的・多角的に考察し、表現する。</p> <p>(イ) 諸資料を活用して、第一次世界大戦と大戦後の諸地域の動向に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、(1)で考察した観点を踏まえた問いを踏まえて、第一次世界大戦の展開と諸地域の変容に関する主題について、第一次世界大戦後の国際協調主義の性格、アメリカ合衆国の台頭の要因、アジア・アフリカのナショナリズムの性格などを多面的・多角的に考察し、表現する。</p>
(4) 第二次世界大戦と諸地域の変容	<p>(ア) 次の①及び②などを題材に、国際関係の緊張と対立を理解する。</p> <p>①世界恐慌とファシズムの動向 ②ヴェルサイユ・ワシントン体制の動揺</p> <p>(イ) 次の①及び②などを題材に、第二次世界大戦の展開と諸地域の変容を理解する。</p> <p>①第二次世界大戦の展開と大戦後の国際秩序 ②冷戦とアジア諸国の独立の始まり</p>	<p>(ア) 諸資料を活用して、世界恐慌と国際協調体制の動揺に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、(1)で考察した観点を踏まえた問いを踏まえて、国際関係の緊張と対立に関する主題について、世界恐慌に対する諸国家の対応策の共通点と相違点、ファシズムの特徴、第二次世界大戦に向かう国際関係の変化の要因などを多面的・多角的に考察し、表現する。</p> <p>(イ) 諸資料を活用して、第二次世界大戦と大戦後の諸地域の動向に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、(1)で考察した観点を踏まえた問いを踏まえて、第二次世界大戦の展開と諸地域の変容に関する主題について、第二次世界大戦中の連合国による戦後構想と大戦後の国際秩序との関連、アジア諸国の独立の地域的な特徴などを多面的・多角的に考察し、表現する。</p>

※各学習内容（白色背景の部分）については、現行学習指導要領をもとに暫定的な内容を記載したものであり、今後、個別の学習内容については別途検討するものとする。

（その検討状況を踏まえて、必要に応じて高次の資質・能力を見直すこともあり得る。）

高次の資質・能力イメージ（案） <世界史探究⑤>

E 地球世界の課題

	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	○資料から収集し読み取った情報を基に、多元的な相互依存関係を深める現代世界の特質について理解するとともに、自ら設定した主題に基に時間軸と空間軸のスケールを活用して地球世界の課題について歴史的な経緯から理解する。	○諸資料を効果的に活用して、時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響、現代世界とのつながりなどに着目し、現代世界の特質に関わる具体的な主題を設定し、歴史的に形成された地球世界の課題を多面的・多角的に考察したことを基に、よりよい社会の実現に向けた展望を構想し、表現することができる。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
(1)国際機構の形成と平和への模索	(ア) 次の①から④などを題材に、紛争解決の取組と課題を理解する。 ①集団安全保障と冷戦の展開 ②アジア・アフリカ諸国の独立と地域連携の動き ③平和共存と多極化の進展 ④冷戦の終結と地域紛争の頻発	(ア) 諸資料を活用して、国際機構の形成と紛争に関わる諸事象の歴史的背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、紛争解決の取組と課題に関する主題について、国際連盟と国際連合との共通点と相違点、冷戦下の紛争解決と冷戦後の紛争解決との共通点と相違点、紛争と経済や社会の変化との関連性などを多面的・多角的に考察し、表現する。
(2)経済のグローバル化と格差の是正	(ア) 次の①から⑤などを題材に、格差是正の取組と課題を理解する。 ①先進国の経済成長と南北問題 ②アメリカ合衆国の覇権の動揺 ③資源ナショナリズムの動きと産業構造の転換 ④アジア・ラテンアメリカ諸国の経済成長と南南問題 ⑤経済のグローバル化	(ア) 諸資料を活用して、国際競争の展開と経済格差に関わる諸事象の歴史的背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、格差是正の取組と課題に関する主題について、先進国による経済援助や経済の成長が見られた地域の特徴、諸地域間の経済格差や各国内の経済格差の特徴、経済格差と政治や社会の変化との関連性などを多面的・多角的に考察し、表現する。
(3)科学技術の高度化と知識基盤社会	(ア) 次の①から④などを題材に、知識基盤社会の展開と課題を理解する。 ①原子力の利用や宇宙探査などの科学技術 ②医療技術・バイオテクノロジーと生命倫理 ③人工知能と労働の在り方の変容 ④情報通信技術の発達と知識の普及	(ア) 諸資料を活用して、科学技術の高度化と知識基盤社会に関わる諸事象の歴史的背景や原因、結果や影響、事象相互の関連などに着目し、知識基盤社会の展開と課題に関する主題について、現代の科学技術や文化の歴史的な特色、第二次世界大戦後の科学技術の高度化と政治・経済・社会の変化との関連性などを多面的・多角的に考察し、表現する。
(4)地球世界の課題の探究	(ア) 次の①から③までのいずれかあるいは関連させて取り上げ、歴史的経緯を踏まえて、持続可能な社会の実現を視野に入れ、地球世界の課題を理解する。 ①紛争解決や共生 ②経済格差の是正や経済発展 ③科学技術の発展や文化の変容	(ア) 内容のA、B、C及びD並びにEの(1)から(3)までの学習を踏まえ、諸資料を活用して、地球世界の課題の形成に関わる諸事象の歴史的背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、地球世界の課題の形成に関わる世界の歴史について多面的・多角的に考察、構想し、表現する。

※各学習内容（白色背景の部分）については、現行学習指導要領をもとに暫定的な内容を記載したものであり、今後、個別の学習内容については別途検討するものとする。
（その検討状況を踏まえて、必要に応じて高次の資質・能力を見直すこともあり得る。）

（9）中学校社会科 公民的分野

高次の資質・能力イメージ（案） <中学校 公民的分野①>

A 私たちと現代社会

(1) 私たちが生きる現代社会と文化の特色	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	○位置や空間的広がり、持続可能性、推移や変化などの視点に基づき、現代日本の社会を特色付ける課題について、グローバル化や文化の意義及び影響と関連付けて理解する。	○位置や空間的広がり、持続可能性、推移や変化などの視点に着目して、現代社会に見られる課題が将来の政治、経済、文化、国際関係に与える影響について、具体的な事例を挙げて、考察し、表現する。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	(ア) 現代日本の特色として情報化、グローバル化、少子高齢化に伴う影響や課題などが見られること (イ) 現代社会における文化の意義や影響	位置や空間的広がり、持続可能性、推移や変化などに着目して、 ・情報化、グローバル化、少子高齢化に伴う影響や課題などが現在と将来の私たちの生活に与える影響について多面的・多角的に考察し、表現する ・文化の継承と創造の意義について多面的・多角的に考察し、表現する
(2) 現代社会を捉える枠組み	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	○個人の尊厳と両性の本質的平等を基礎とする現代社会を捉える基礎となる枠組みとして、対立と合意、効率と公正などを理解した上で、合意を定めるきまり・契約の重要性やそれを守ることの意義及び個人の責任を理解する。	○対立と合意、効率と公正などの現代社会を捉える基礎となる枠組みに着目して、望ましい合意の在り方や合意を実現するために必要な事柄などについて、具体的な事例を挙げて、考察し、表現する。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	(ア) 人間は本来社会的存在であることを基に、個人の尊厳と両性の本質的平等 (イ) 現代社会の見方や考え方の基礎となる枠組みとしての対立と合意、効率と公正 (ウ) 契約の重要性やそれを守ることの意義及び個人の責任	対立と合意、効率と公正などに着目して、 ・社会生活における物事の決定の仕方、契約を通じた個人と社会との関係、きまりの役割について多面的・多角的に考察し、表現する

※各学習内容（白色背景の部分）については、現行学習指導要領をもとに暫定的な内容を記載したものであり、今後、個別の学習内容については別途検討するものとする。

（その検討状況を踏まえて、必要に応じて高次の資質・能力を見直すこともあり得る。）

※概念的な枠組みは一人一人異なっていることに留意する。

B 私たちと経済

(1) 市場の働きと経済	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	○分業と交換などの現代社会を捉える概念的な枠組みに基づき、経済に関する仕組みと身近な経済活動に見られる諸事象を結び付けた、経済活動の意義について理解した上で、それと関連付けて、市場の働きと経済を理解する。	○対立と合意、効率と公正、分業と交換、希少性、誠実性などの現代社会を捉える概念的な枠組みに着目して、より活発な経済活動と個人の尊重を両立させることが重要であることを踏まえた、豊かな経済活動の実現とその方法について、具体的な事例を挙げて、考察し、表現する。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	(ア) 身近な消費生活を中心に経済活動の意義 (イ) 市場における価格の決め方や資源の配分などを含めた、市場経済の基本的な考え方 (ウ) 現代の生産や金融などの仕組みや働き (エ) 勤労の権利と義務、労働組合の意義及び労働基準法の内容	対立と合意、効率と公正、分業と交換、希少性、誠実性などに着目して、 ・個人や企業の経済活動における役割と責任について多面的・多角的に考察し、表現する ・社会生活における職業の意義と役割及び雇用と労働条件の改善について多面的・多角的に考察し、表現する
(2) 国民の生活と政府の役割	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	○分業と交換などの現代社会を捉える概念的な枠組みに基づき、国や地方公共団体の財政に関する仕組みとそれらの意義などについて理解した上で、それと関連付けて、すべての経済主体が連携・協働を図ることの意味を理解する。	○対立と合意、効率と公正、分業と交換、希少性、誠実性などの現代社会を捉える概念的な枠組みに着目して、すべての経済主体が連携・協働を図ることが効果的であることを踏まえた、現代社会に見られる課題の解決とその方法について、具体的な事例を挙げて、考察、構想し、表現する。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	(ア) 社会資本の整備、公害の防止など環境の保全、人口減少社会における社会保障の充実・安定化、消費者の保護について、それらの意義 (イ) 財政及び租税の意義、国民の納税の義務 (ウ) 現代社会に見られる課題に関わる諸資料から、社会に参画する主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能	対立と合意、効率と公正、希少性、誠実性、分業と交換などに着目して、国や地方公共団体の財政に関する役割を踏まえて、社会に参画する主体としての自覚の基礎を育成することに向けて、 ・市場の働きに委ねることが難しい諸問題に関して、国や地方公共団体が果たす役割について多面的・多角的に考察、構想し、表現する ・財政及び租税の役割について多面的・多角的に考察し、表現する

※各学習内容（白色背景の部分）については、現行学習指導要領をもとに暫定的な内容を記載したものであり、今後、個別の学習内容については別途検討するものとする。

（その検討状況を踏まえて、必要に応じて高次の資質・能力を見直すこともあり得る。）

※概念的な枠組みは一人一人異なっていることに留意する。

C 私たちと政治

(1) 人間の尊重と日本国憲法の基本的原則	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	○個人の尊重などの現代社会を捉える概念的な枠組みに基づき、個人が尊重され協働の利益が確保される国家・社会を形成するために憲法が果たす意義について理解した上で、それと関連付けて、日本国憲法の基本原理を理解する。	○対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などの現代社会を捉える概念的な枠組みに着目して、現代社会の課題を解決するために、憲法に基づいて政治が行われることや日本国憲法の基本原理が果たす意義について、具体的な事例を挙げて、考察し、表現する。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	(ア) 人間の尊重についての考え方を、基本的人権を中心に深め、法の意義 (イ) 民主的な社会生活を営むためには、法に基づく政治が大切であること (ウ) 日本国憲法が基本的人権の尊重、国民主権及び平和主義を基本的原則としていること (エ) 日本国及び日本国民統合の象徴としての天皇の地位と天皇の国事に関する行為	対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、 ・我が国の政治が日本国憲法に基づいて行われていることの意義について多面的・多角的に考察し、表現する
(2) 民主政治と政治参加	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	○個人の尊重などの現代社会を捉える概念的な枠組みに基づき、国民の政治参加の意義について理解した上で、それと関連付けて、地方自治や我が国の民主政治の考え方を理解する。	○対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などの現代社会を捉える概念的な枠組みに着目して、社会に参画する主体として、地方自治や我が国の民主政治の発展に寄与しようとする自覚などを育成することに向けて、政治参加に関する具体的な課題を挙げて、望ましい政治参加の在り方について考察、構想し、表現する。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	(ア) 国会を中心とする我が国の民主政治の仕組みのあらましや政党の役割 (イ) 議会制民主主義の意義、多数決の原理とその運用の在り方 (ウ) 国民の権利を守り、社会の秩序を維持するために、法に基づく公正な裁判の保障があること (エ) 地方自治の基本的な考え方について理解すること。その際、地方公共団体の政治の仕組み、住民の権利や義務 (オ) 現代社会に見られる課題に関わる諸資料から、社会に参画する主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能	対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、社会に参画する主体として、地方自治や我が国の民主政治の発展に寄与しようとする自覚や住民としての自治意識の基礎を育成することに向けて、 ・民主政治の推進と、公正な世論の形成や選挙など国民の政治参加との関連について多面的・多角的に考察、構想し、表現する

※各学習内容（白色背景の部分）については、現行学習指導要領をもとに暫定的な内容を記載したものであり、今後、個別の学習内容については別途検討するものとする。

（その検討状況を踏まえて、必要に応じて高次の資質・能力を見直すこともあり得る。）

※概念的な枠組みは一人一人異なっていることに留意する。

D 私たちと国際社会の諸課題

(1)世界 平和と人 類の福祉 の増大	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	○持続可能性などの現代社会を捉える概念的な枠組みに基づき、国際社会に関する基本的な事項、国際社会の現状などについて理解した上で、それと関連付けて、世界平和の実現と人類の福祉の増大に向けて、地球規模の諸課題の解決のために国際協調や協力などが大切であることを個人と社会の関わりを中心に理解を深める。	○対立と合意、効率と公正、協調、持続可能性などの現代社会を捉える概念的な枠組みに着目して、主体的に社会に関わることに向けて、世界平和のために私たちにできることについて、考察、構想したことを説明したり、それらをもとに議論したりする。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	(ア) 世界平和の実現と人類の福祉の増大のためには、国際協調の観点から、国家間の相互の主権の尊重と協力、各国民の相互理解と協力及び国際連合をはじめとする国際機構や国際法などの役割が大切であること (イ) 領土（領海、領空を含む。）、国家主権、国際連合をはじめとする国際機構、国際法など基本的な事項 (ウ) 地球環境、資源・エネルギー、貧困などの課題の解決のために経済的、技術的な協力などが大切であること (エ) 国際社会に見られる課題に関わる諸資料から、社会に参画する主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能	対立と合意、効率と公正、協調、持続可能性などのに着目して、国際社会に参画する主体としての自覚の基礎を育成することに向けて、 ・日本国憲法の平和主義を基に、我が国の安全と防衛、国際貢献を含む国際社会における我が国の役割について多面的・多角的に考察、構想し、表現する。
(2)よりよ い社会を 目指して	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	—	○地理的分野、歴史的分野などの学習を生かし、現代の社会的事象から課題を見だし、社会参画を視野に入れながら、妥当性や効果、実現可能性などを指標にして、考察、構想し、自分の考えを説明、論述することを通して、私たちがよりよい社会を築いていくために考え続けていく新たな問いを見いだす。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	—	持続可能な社会を形成することに向けて、地理的分野、歴史的分野などの学習を生かし、 ・私たちがよりよい社会を築いていくために解決すべき課題について、社会参画を視野に入れながら、多面的・多角的に考察、構想し、自分の考えを説明、論述する。

※各学習内容（白色背景の部分）については、現行学習指導要領をもとに暫定的な内容を記載したものであり、今後、個別の学習内容については別途検討するものとする。

（その検討状況を踏まえて、必要に応じて高次の資質・能力を見直すこともあり得る。）

※概念的な枠組みは一人一人異なっていることに留意する。

(10) 高等学校公民科 公共

高次の資質・能力イメージ（案） <公共①>

A 公共の扉

(1) 公共的な空間を作る私たち	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	○幸福、人間と社会の多様性と共通性などの人間と社会の在り方を捉える概念的な枠組みに基づき、人間がよりよく生きるためには、個人として尊重されるとともに、自立した主体として公共的な空間に参画する必要があることについて理解した上で、そのために自らの資質・能力を高め、人間として成長しなければならないことを理解する。	○公共的な空間と人間との関わり、個人の尊厳と自主・自律、人間と社会の多様性と共通性などの人間と社会の在り方を捉える概念的な枠組みに着目して、自らの問題として、社会に参画する自立した主体とは何かということについて考察し、表現する。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	公共的な空間と人間との関わり、個人の尊厳と自主・自律、人間と社会の多様性と共通性などに着目して、社会に参画する自立した主体とは何かを問い、現代社会に生きる人間としての在り方生き方を探求して、 (ア) 自らの体験などを振り返ることを通して、自らを成長させる人間としての在り方生き方 (イ) 人間は、個人として相互に尊重されるべき存在であるとともに、対話を通して互いの様々な立場を理解し高め合うことのできる社会的な存在であること、伝統や文化、先人の取組や知恵に触れたりすることなどを通して、自らの価値観を形成するとともに他者の価値観を尊重することができるようになる存在であること (ウ) 自分自身が、自主的によりよい公共的な空間を作り出していこうとする自立した主体になることが、自らのキャリア形成とともにによりよい社会の形成に結び付くこと	公共的な空間と人間との関わり、個人の尊厳と自主・自律、人間と社会の多様性と共通性などに着目して、社会に参画する自立した主体とは何かを問い、現代社会に生きる人間としての在り方生き方を探求して、 ・社会に参画する自立した主体とは、孤立して生きるのではなく、地域社会などの様々な集団の一員として生き、他者との協働により当事者として国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることについて多面的・多角的に考察し、表現する。
(2) 公共的な空間における人間としての在り方生き方	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	○幸福、正義、公正などの人間と社会の在り方を捉える概念的な枠組みに基づき、主体的に社会に参画し、他者と協働する際に選択・判断を行う手掛かりとなる考え方について、人間としての在り方生き方に関連付けて理解する。	○現代の倫理的課題について、幸福、正義、公正などの人間と社会の在り方を捉える概念的な枠組みに着目して、選択・判断の手掛かりとなる考え方や思考実験などを活用して考察することで、課題の本質を的確に捉えた上で、自らも他者も共に納得できる解決方法を見いだすための糸口などについて考察し、表現する。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	主体的に社会に参画し、他者と協働することに向けて、幸福、正義、公正などに着目して、 (ア) 選択・判断の手掛かりとして、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方や、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方など (イ) 現代の諸課題について自らも他者も共に納得できる解決方法を見いだすことに向け、(ア)に示す考え方を活用することを通して、行為者自身の人間としての在り方生き方について探求することが、よりよく生きていく上で重要であること (ウ) 人間としての在り方生き方に関わる諸資料から、よりよく生きる行為者として活動するために必要な情報を収集し、読み取る技能	主体的に社会に参画し、他者と協働することに向けて、幸福、正義、公正などに着目して、 ・倫理的価値の判断において、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方と、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などを活用し、自らも他者も共に納得できる解決方法を見いだすことに向け、思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、人間としての在り方生き方を多面的・多角的に考察し、表現する。

※各学習内容（白色背景の部分）については、現行学習指導要領をもとに暫定的な内容を記載したものであり、今後、個別の学習内容については別途検討するものとする。

（その検討状況を踏まえて、必要に応じて高次の資質・能力を見直すこともあり得る。）

※概念的な枠組みは一人一人異なっていることに留意する。

A 公共の扉

(3)公共的な空間における基本的原理	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	○幸福、正義、公正などの人間と社会の在り方を捉える概念的な枠組みに基づき、個人の尊重と協働の利益の確保などを共に図ることが、公共的な空間を作る目的であることについて理解した上で、それと関連付けて公共的な空間における基本的原理を理解する。	○幸福、正義、公正などの人間と社会の在り方を捉える概念的な枠組みに着目して、人間が協働する理由、協働関係を妨げる要因について考察した上で、公共的な空間における基本原理が、協働の条件として、あるいは協働関係を妨げる要因を取り除く工夫として、どのような役割を果たすかということについて、具体的な事例を挙げて、考察し、表現する。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	自主的によりよい公共的な空間を作り出していこうとする自立した主体となることに向けて、幸福、正義、公正などに着目して、 (ア) 各人の意見や利害を公平・公正に調整することなどを通して、人間の尊厳と平等、協働の利益と社会の安定性の確保を共に図ることが、公共的な空間を作る上で必要であること (イ) 人間の尊厳と平等、個人の尊重、民主主義、法の支配、自由・権利と責任・義務など、公共的な空間における基本的原理・公共的な空間における基本的原理について、思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、個人と社会との関わりにおいて多面的・多角的に考察し、表現する。	自主的によりよい公共的な空間を作り出していこうとする自立した主体となることに向けて、幸福、正義、公正などに着目して、 ・公共的な空間における基本的原理について、思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、個人と社会との関わりにおいて多面的・多角的に考察し、表現する。

※各学習内容（白色背景の部分）については、現行学習指導要領をもとに暫定的な内容を記載したものであり、今後、個別の学習内容については別途検討するものとする。

（その検討状況を踏まえて、必要に応じて高次の資質・能力を見直すこともあり得る。）

※概念的な枠組みは一人一人異なっていることに留意する。

B 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち

	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	○よりよい社会の形成に参画することに向けて、人間としての在り方生き方に関する理解を深めつつ、幸福、正義、公正などの人間と社会の在り方を捉える概念的な枠組みに基づき、法、政治及び経済などに関わる仕組みの特徴及びそれらが現代の諸課題の解決にどのように役立つかを理解した上で、それらの仕組みの下で活動するために必要な知識を理解する。	○自立した主体としてよりよい社会の形成に参画することに向けて、現実社会の諸課題に関わる具体的な主題について、幸福、正義、公正などの人間と社会の在り方を捉える概念的な枠組みに着目し、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理などを活用しつつ、関係する者の利害を適切に考慮して、考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現する。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
—	<p>自立した主体としてよりよい社会の形成に参画することに向けて、現実社会の諸課題に関わる具体的な主題を設定し、幸福、正義、公正などに着目して、他者と協働して、</p> <p>(ア) 法や規範の意義及び役割、多様な契約及び消費者の権利と責任、司法参加の意義などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、憲法の下、適正な手続きに則（のっとり）、法や規範に基づいて各人の意見や利害を公平・公正に調整し、個人や社会の紛争を調停、解決することなどを通して、権利や自由が保障、実現され、社会の秩序が形成、維持されていくこと</p> <p>(イ) 政治参加と公正な世論の形成、地方自治、国家主権、領土（領海、領空を含む。）、我が国の安全保障と防衛、国際貢献を含む国際社会における我が国の役割などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、よりよい社会は、憲法の下、個人が議論に参加し、意見や利害の対立状況を調整して合意を形成することなどを通して築かれるものであること</p> <p>(ウ) 職業選択、雇用と労働問題、財政及び租税の役割、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化、市場経済の機能と限界、金融の働き、経済のグローバル化と相互依存関係の深まり（国際社会における貧困や格差の問題を含む。）などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、公正かつ自由な経済活動を行うことを通して資源の効率的な配分が図られること、市場経済システムを機能させたり国民福祉の向上に寄与したりする役割を政府などが担っていること及びより活発な経済活動と個人の尊重を共に成り立たせることが必要であること</p> <p>(エ) 現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能</p>	<p>自立した主体としてよりよい社会の形成に参画することに向けて、現実社会の諸課題に関わる具体的な主題を設定し、幸福、正義、公正などに着目して、他者と協働して、</p> <p>・(ア)から(ウ)までの事項について、法、政治及び経済などの側面を関連させ、自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現する。</p>

※各学習内容（白色背景の部分）については、現行学習指導要領をもとに暫定的な内容を記載したものであり、今後、個別の学習内容については別途検討するものとする。

（その検討状況を踏まえて、必要に応じて高次の資質・能力を見直すこともあり得る。）

※概念的な枠組みは一人一人異なっていることに留意する。

C 持続可能な社会づくりの主体となる私たち

—	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	—	○地域の創造、よりよい国家・社会の構築及び平和で安定した国際社会の形成へ主体的に参画し、共に生きる社会を築くという観点から課題を見いだし、幸福、正義、公正などの人間と社会の在り方を捉える概念的な枠組みに着目して、関係する者の利害を適切に考慮した上で、その課題の解決に向けて事実を基に協働して考察、構想し、妥当性や効果、実現可能性などを指標にして、論拠を基に自分の考えを説明、論述することを通して、私たちがよりよい社会を築いていくために考え続けていく新たな問いを見いだす。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	—	持続可能な地域、国家・社会及び国際社会づくりに向けた役割を担う、公共の精神をもった自立した主体となることに向けて、幸福、正義、公正などに着目して、現代の諸課題を探究して、 ・地域の創造、よりよい国家・社会の構築及び平和で安定した国際社会の形成へ主体的に参画し、共に生きる社会を築くという観点から課題を見いだし、その課題の解決に向けて事実を基に協働して考察、構想し、妥当性や効果、実現可能性などを指標にして、論拠を基に自分の考えを説明、論述する。

※各学習内容（白色背景の部分）については、現行学習指導要領をもとに暫定的な内容を記載したものであり、今後、個別の学習内容については別途検討するものとする。

（その検討状況を踏まえて、必要に応じて高次の資質・能力を見直すこともあり得る。）

※概念的な枠組みは一人一人異なっていることに留意する。

(11) 高等学校公民科 倫理

高次の資質・能力イメージ（案） <倫理①>

A 現代に生きる自己の課題と人間としての在り方生き方

(1)人間としての在り方生き方の自覚	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	○古今東西の先哲の考え方に基づき、人間としての在り方生き方に関わる概念や理論について理解した上で、人間としての在り方生き方について思索を深めることが大切であることを理解する。	○古今東西の先哲の考え方を手掛かりとして、人間としての在り方生き方について多面的・多角的に考察し、表現する。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	人間の存在や価値に関わる基本的な課題について思索する活動を通して、 (ア) 個性、感情、認知、発達などに着目して、豊かな自己形成に向けて、他者と共によりよく生きる自己の生き方についての思索を深めるための手掛かりとなる様々な人間の心の在り方 (イ) 幸福、愛、徳などに着目して、人間としての在り方生き方について思索するための手掛かりとなる様々な人生観及び人生における宗教や芸術のもつ意義 (ウ) 善、正義、義務などに着目して、社会の在り方と人間としての在り方生き方について思索するための手掛かりとなる様々な倫理観 (エ) 真理、存在などに着目して、世界と人間の在り方について思索するための手掛かりとなる様々な世界観 (オ) 古今東西の先哲の思想に関する原典の日本語訳などの諸資料から、人間としての在り方生き方に関わる情報を読み取る技能	古今東西の先哲の考え方を手掛かりとして、 ・自己の生き方を見つめ直し、自らの体験や悩みを振り返り、他者、集団や社会、生命や自然などとの関わりにも着目して自己の課題を捉え、その課題を現代の倫理的課題と結び付けて多面的・多角的に考察し、表現する。 ・古今東西の先哲の考え方を手掛かりとして、より広い視野から、人間としての在り方生き方について多面的・多角的に考察し、表現する。
(2)国際社会に生きる日本人としての自覚	○古来の日本人の考え方や日本の先哲の考え方に基づき、日本人に見られる人間観、自然観、宗教観などの特質について自己との関わりにおいて理解した上で、国際社会に生きる日本人としての在り方生き方について思索することが大切であることを理解する。	○古来の日本人の考え方や日本の先哲の考え方を手掛かりとして、国際社会に主体的に生きる日本人としての在り方生き方について多面的・多角的に考察し、表現する。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	日本人としての在り方生き方について思索する活動を通して、 (ア) 古来の日本人の心情と考え方や日本の先哲の思想に着目して、我が国の風土や伝統、外来思想の受容などを基に、国際社会に生きる日本人としての在り方生き方について思索するための手掛かりとなる日本人に見られる人間観、自然観、宗教観などの特質について、自己との関わりにおいて理解する (イ) 古来の日本人の心情と考え方や日本の先哲の思想に関する原典や原典の口語訳などの諸資料から、日本人としての在り方生き方に関わる情報を読み取る技能	古来の日本人の考え方や日本の先哲の考え方を手掛かりとして、 ・国際社会に主体的に生きる日本人としての在り方生き方について多面的・多角的に考察し、表現する。

※各学習内容（白色背景の部分）については、現行学習指導要領をもとに暫定的な内容を記載したものであり、今後、個別の学習内容については別途検討するものとする。

（その検討状況を踏まえて、必要に応じて高次の資質・能力を見直すこともあり得る。）

※概念的な枠組みは一人一人異なっていることに留意する。

B 現代の諸課題と倫理

(1)自然 や科学技 術に関わ る諸課題 と倫理	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	—	○他者と対話しながら、現代の諸課題を探究する活動を通して、自然や科学技術と人間との関わりについての倫理的課題を見だし、その解決に向けて倫理に関する概念や理論などを手掛かりとして多面的・多角的に考察し、公正に判断して構想し、自分の考えを説明、論述することを通して、私たちがよりよい社会を築いていくために探究し続けていく新たな問いを見いだすことができる。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	—	自然や科学技術との関わりにおいて、小・中学校社会科及び道徳、高等学校公民科の学習を生かし、他者と対話しながら、現代の諸課題を探究する活動を通して、 ・生命、自然、科学技術などと人間との関わりについて倫理的課題を見だし、その解決に向けて倫理に関する概念や理論などを手掛かりとして多面的・多角的に考察し、公正に判断して構想し、自分の考えを説明、論述する。
(2)社会 と文化に 関わる諸 課題と倫 理	—	○様々な他者との協働、共生に向けて、他者と対話しながら、現代の諸課題を探究する活動を通して、社会と文化に関わる倫理的課題を見だし、その解決に向けて倫理に関する概念や理論などを手掛かりとして多面的・多角的に考察し、公正に判断して構想し、自分の考えを説明、論述することを通して、私たちがよりよい社会を築いていくために探究し続けていく新たな問いを見いだすことができる。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	—	様々な他者との協働、共生に向けて、小・中学校社会科及び道徳、高等学校公民科の学習を生かし、他者と対話しながら、現代の諸課題を探究する活動を通して、 ・福祉、文化と宗教、平和などについて倫理的課題を見だし、その解決に向けて倫理に関する概念や理論などを手掛かりとして多面的・多角的に考察し、公正に判断して構想し、自分の考えを説明、論述する。

※各学習内容（白色背景の部分）については、現行学習指導要領をもとに暫定的な内容を記載したものであり、今後、個別の学習内容については別途検討するものとする。

（その検討状況を踏まえて、必要に応じて高次の資質・能力を見直すこともあり得る。）

※概念的な枠組みは一人一人異なっていることに留意する。

(12) 高等学校公民科 政治・経済

A 現代日本における政治・経済の諸課題

(1)現代日本の政治・経済	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	○個人の尊厳と基本的人権の尊重などの社会の在り方を捉える概念的な枠組みに基づき、現代日本の政治・経済、その諸課題に関わる概念や理論について、現実社会の諸事象を通して理解を深める。	個人の尊厳と基本的人権の尊重、対立、協調、効率、公正などの社会の在り方を捉える概念的な枠組みに着目して、政治・経済に関わる基本原理と関連付けて、 ○現代日本の政治・経済の仕組みや制度とそれらの課題について、考察し、表現する。 ○政治・経済に関わる諸事象に見られる矛盾や対立などを見だし、その解決に向けて、望ましい現代日本の政治・経済の仕組みや制度の在り方について、考察、構想し、表現する。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	個人の尊厳と基本的人権の尊重、対立、協調、効率、公正などに着目して、現代の諸課題を追究したり解決に向けて構想したりして、 (ア) 政治と法の意義と機能、基本的人権の保障と法の支配、権利と義務との関係、議会制民主主義、地方自治 (イ) 経済活動と市場、経済主体と経済循環、国民経済の大きさと経済成長、物価と景気変動、財政の働きと仕組み及び租税などの意義、金融の働きと仕組み (ウ) 現代日本の政治・経済に関する諸資料から、課題の解決に向けて考察、構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取る技能	個人の尊厳と基本的人権の尊重、対立、協調、効率、公正などに着目して、現代の諸課題を追究したり解決に向けて構想したりして、 ・民主政治の本質を基に、日本国憲法と現代政治の在り方との関連について多面的・多角的に考察し、表現する。 ・政党政治や選挙などの観点から、望ましい政治の在り方及び主権者としての政治参加の在り方について多面的・多角的に考察、構想し、表現する。 ・経済活動と福祉の向上との関連について多面的・多角的に考察し、表現する。 ・市場経済の機能と限界、持続可能な財政及び租税の在り方、金融を通じた経済活動の活性化について多面的・多角的に考察、構想し、表現する。

※各学習内容（白色背景の部分）については、現行学習指導要領をもとに暫定的な内容を記載したものであり、今後、個別の学習内容については別途検討するものとする。

（その検討状況を踏まえて、必要に応じて高次の資質・能力を見直すこともあり得る。）

※概念的な枠組みは一人一人異なっていることに留意する。

A 現代日本における政治・経済の諸課題

(2)現代日本における政治・経済の諸課題の探究	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	—	○合意形成や社会参画に向けて、他者と協働して持続可能な社会を形成するという観点から現代日本社会の課題を見だし、小・中学校社会科、高等学校地理歴史科、公民科の学習を生かし、関係する者の利害を適切に調整し、その課題の解決の在り方について、妥当性や効果、実現可能性などを指標にして、考察、構想し、自分の考えを広い視野から説明、論述することを通して、私たちがよりよい社会を築いていくために探究し続けていく新たな問いを見いだすことができる。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	—	小・中学校社会科、高等学校地理歴史科、公民科の学習を生かし、他者と協働して持続可能な社会の形成が求められる現代日本社会の諸課題を探究して、 ・少子高齢社会における社会保障の充実・安定化、地域社会の自立と政府、多様な働き方・生き方を可能にする社会、産業構造の変化と起業、歳入・歳出両面での財政健全化、食料の安定供給の確保と持続可能な農業構造の実現、防災と安全・安心な社会の実現などについて、取り上げた課題の解決に向けて政治と経済とを関連させて多面的・多角的に考察、構想し、よりよい社会の在り方についての自分の考えを説明、論述する。

※各学習内容（白色背景の部分）については、現行学習指導要領をもとに暫定的な内容を記載したものであり、今後、個別の学習内容については別途検討するものとする。

（その検討状況を踏まえて、必要に応じて高次の資質・能力を見直すこともあり得る。）

※概念的な枠組みは一人一人異なっていることに留意する。

B 国際社会の諸課題

(1)現代の国際政治・経済	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	○個人の尊厳と基本的人権の尊重などの社会の在り方を捉える概念的な枠組みに基づき、現代の国際政治・経済、その諸課題に関わる概念や理論について、現実社会の諸事象を通して理解を深める。	個人の尊厳と基本的人権の尊重、対立、協調、効率、公正などの社会の在り方を捉える概念的な枠組みに着目して、政治・経済に関わる基本原理と関連付けて、 ○国際政治・経済の仕組みや制度とそれらの課題について、考察し、表現する。 ○政治・経済に関わる諸事象に見られる課題などを見だし、その解決に向けて、望ましい国際政治・経済の仕組みや制度の在り方について、考察、構想し、表現する。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	国際平和と人類の福祉に寄与しようとする自覚を深めることに向けて、個人の尊厳と基本的人権の尊重、対立、協調、効率、公正などに着目して、現代の諸課題を追究したり解決に向けて構想したりして、 (ア) 国際社会の変遷、人権、国家主権、領土（領海、領空を含む。）などに関する国際法の意義、国際連合をはじめとする国際機構の役割、我が国の安全保障と防衛、国際貢献 (イ) 貿易の現状と意義、為替相場の変動、国民経済と国際収支、国際協調の必要性や国際経済機関の役割 (ウ) 現代の国際政治・経済に関する諸資料から、課題の解決に向けて考察、構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取る技能	国際平和と人類の福祉に寄与しようとする自覚を深めることに向けて、個人の尊厳と基本的人権の尊重、対立、協調、効率、公正などに着目して、現代の諸課題を追究したり解決に向けて構想したりして、 ・国際社会の特質や国際紛争の諸要因を基に、国際法の果たす役割について多面的・多角的に考察し、表現する。 ・国際平和と人類の福祉に寄与する日本の役割について多面的・多角的に考察、構想し、表現する。 ・相互依存関係が深まる国際経済の特質について多面的・多角的に考察し、表現する。 ・国際経済において果たすことが求められる日本の役割について多面的・多角的に考察、構想し、表現する。

※各学習内容（白色背景の部分）については、現行学習指導要領をもとに暫定的な内容を記載したものであり、今後、個別の学習内容については別途検討するものとする。

（その検討状況を踏まえて、必要に応じて高次の資質・能力を見直すこともあり得る。）

※概念的な枠組みは一人一人異なっていることに留意する。

B 国際社会の諸課題

(2)国際社会の諸課題の探究	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	—	○合意形成や社会参画に向けて、他者と協働して持続可能な社会を形成するという観点から国際社会の課題を見だし、小・中学校社会科、高等学校地理歴史科、公民科の学習を生かし、関係する者の利害を適切に調整し、その課題の解決の在り方について、妥当性や効果、実現可能性などを指標にして、考察、構想し、自分の考えを広い視野から説明、論述することを通して、私たちがよりよい社会を築いていくために探究し続けていく新たな問いを見いだすことができる。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	—	小・中学校社会科、高等学校地理歴史科、公民科の学習を生かし、他者と協働して持続可能な社会の形成が求められる国際社会の諸課題を探究して、 ・グローバル化に伴う人々の生活や社会の変容、地球環境と資源・エネルギー問題、国際経済格差の是正と国際協力、イノベーションと成長市場、人種・民族問題や地域紛争の解決に向けた国際社会の取組、持続可能な国際社会づくりなどについて、取り上げた課題の解決に向けて政治と経済とを関連させて多面的・多角的に考察、構想し、よりよい社会の在り方についての自分の考えを説明、論述する。

※各学習内容（白色背景の部分）については、現行学習指導要領をもとに暫定的な内容を記載したものであり、今後、個別の学習内容については別途検討するものとする。

（その検討状況を踏まえて、必要に応じて高次の資質・能力を見直すこともあり得る。）

※概念的な枠組みは一人一人異なっていることに留意する。

(参考資料)

「資質・能力の深まり」と「資質・能力の一体的育成」の可視化による「深い学び」の具現化

教育課程企画特別部会
論点整理P12を更新

- 知識の理解も、それが生きて働くように深く学ぶことが重要。思考力、判断力、表現力等も、社会や生活で直面する未知の状況でも課題解決に繋げていけるよう「質」を高めることが重要（**資質・能力の「深まり」**）
 - ある程度の知識・技能なしに思考・判断・表現することは難しいし、思考・判断・表現を伴う学習活動なしに、知識の深い理解と技能の確かな定着は難しい（**資質・能力の「一体的育成」**）
- こうした「**資質・能力の深まり**」と「**資質・能力の一体的育成**」を学習指導要領上で可視化することにより、**資質・能力の関係性の理解や、それらを一体的に育成するための教師の単元づくりを助け、「深い学び」を授業で具現化しやすくする**

＜生きて働く＞

知識及び技能

他の学習や生活の場面でも活用できる

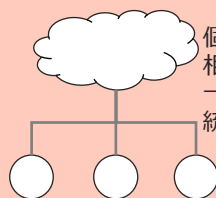
高次の資質・能力

知識及び技能に関する統合的な理解

個別の知識や技能が相互に関連付けられて一般化され、統合的な理解となった姿

（例）関数を使えば未知の状況を予測できる

資質・能力の
「深まり」の
可視化



個別の知識や技能が相互に関連付けられて一般化されながら統合的に理解される

個別の知識や技能

（例）

- ・比例・反比例の理解
- ・一次方程式の解き方
- ・二元一次方程式を関数としてみなせることの理解
- ・現実の事象を関数でモデル化できることの理解
- ・二次関数でモデル化できる事象があることの理解

＜未知の状況にも対応できる＞

思考力、判断力、表現力等

知識・技能を活用しながら、未知の場面でも課題を解決できる

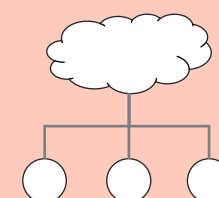
高次の資質・能力

思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮

複雑な課題の解決に向けて、個別の思考力、判断力、表現力等を組み合わせたり選んだりして総合的に働かせた姿

（例）現実の事象を数式でモデル化し、未知の状況を予測して、具体的な解決策を選択する

資質・能力の
「深まり」の
可視化



複雑な課題の解決に向けて、個別の思考力、判断力、表現力等を総合的に働かせる

個別の思考力、判断力、表現力等

（例）

- ・二つの数量の変化・対応関係を見だし、式やグラフを用いて考察する
- ・現実の事象にある二つの数量の関係を関数と仮定して処理したりその結果に基づいて判断する

※「高次の資質・能力」は、個別の資質・能力が深まることで至る、「統合的な理解」や「総合的な発揮」を指し示すものであり、個別の資質・能力との関係で重要性の軽重を意味するものではない。

1. 「高次の資質・能力」の可視化の目的

- 検討項目③では表形式での内容の構造化で、
 - ✓ 「知・技」「思・判・表」の深まりの可視化
(従前の「タテ」の関係の可視化)
 - ✓ 「知・技」「思・判・表」の一体的育成の可視化
(従前の「ヨコ」の関係の可視化)

を図ることにより、資質・能力の関係性の理解に基づき、それらを一体的に育成する単元づくりを助け「深い学び」を具現化しやすくする方策を検討した

- このうち特に、「知識及び技能の統合的な理解」「思考力・判断力・表現力等の総合的な発揮」(※以下、総称して「高次の資質・能力」)を示すことについては、「知・技」「思・判・表」の深まりの可視化を通じて「深い学び」を実現する単元づくりのイメージを教師が持てるようにする役割を担うもの

※論点整理では、「知・技」の深まりを示すものを「中核的な概念の深い理解」、「思・判・表」の深まりを示すものを「複雑な課題の解決」と仮称し、それらをまとめて「中核的な概念等」と呼んでいたが、新たな用語が増えることを避けるため現行でも用いられている言葉を用いることとしたもの。「知識及び技能の統合的な理解」「思考力・判断力・表現力等の総合的な発揮」をまとめて呼称する際、以後「高次の資質・能力」と呼ぶこととする。これらの用語の在り方については、各教科等WGでの具体的な議論も踏まえた上で、学校現場に趣旨が適切に伝わるものとなっているかという視点から継続的に検討。

2. 各WGでの検討に当たっての考え方

- こうした役割を果たす「高次の資質・能力」を各WGで具体的に抽出する際、各教科等固有の学習過程の改善を図るためには、教科ごとの特質に応じて検討が行われる必要があります、書きぶりを現時点で一律に整理すべきものではない
- 一方で、各教科等での「高次の資質・能力」は、備えるべき要素や性質等について、一定の共通性があることにより、各教科等を横断して適切に機能を発揮することが期待できる
- 各教科等の独自性を活かしつつ、共通に備えるべき要素や性質等が確保された「高次の資質・能力」の書きぶりとなるよう、次頁のように「高次の資質・能力」がその目的を踏まえたものとなっていることを担保するチェックポイントを示した上で、各教科等WGでの検討を深めてはどうか(次頁参照)
- なお、「全てのポイントに照らして異論の余地のない」ものを検討することは困難な場合も考えられるため、各教科等の授業改善に資する点を重視しつつ検討を進めるべきではないか

「高次の資質・能力」を検討する上でのチェックポイント（案）

【A 教科等の本質的意義の中核に照らした重要性の観点】

- ・目標の達成に資する上で重要であるとともに、各教科等の本質的意義の中核（「見方・考え方」）に照らし適切なものであるといえるか

【B 資質・能力の深まりを示す観点】

- ・要素となる個別の資質・能力の「深まり」を示す事ができているか。具体的には、内容のまとまりを単に要約した「見出し」に留まるのではなく、個別の資質・能力が児童生徒の中で相互に関連付けられて、統合的に獲得された際の姿を示すことができているか
- ・要素となる個別の資質・能力を学ぶことの意義（※）や、それを広く社会において、いつ、どのような文脈で活用することができるのか、を教師がイメージしやすいものとなっているか

（※）学ぶことの「意義」は必ずしも実生活における実用的な側面にとどまらない点に留意

【C 深い学びを実現する単元づくりを助ける観点】

- ・教師が単元構想時に、「知識及び技能の統合的な理解」と、それにぶら下がる個別の「知・技」、「思考力・判断力・表現力等の総合的な発揮」と、それにぶら下がる個別の「思・判・表」とを往還して参照した際、単元を通じて児童生徒が追究する本質的な「問い」を構想する上で参考になるか
- ・教師が単元構想時に、「思考力・判断力・表現力等の総合的な発揮」と、それにぶら下がる個別の「思・判・表」とを往還して参照した際、論述・レポート・発表・作品製作等、単元を通じて児童生徒が資質・能力を総合的に発揮しながら取り組む課題を構想する上で参考になるか

【D 分かりやすさ等の観点】

- ・経験の浅い教師も含めて、一人一人の教師にとって、分かりやすく、使いやすいことに加え、教科等の面白さや魅力が伝わる文言となっているか（学習・指導を通じて、最終的には児童生徒自身が掴むことができる必要があるという点も留意）
- ・学校種・学年等、発達段階に即して妥当なものとなっているか（系統性等の重視により、発達段階に照らし過度に抽象的となっていないか等）